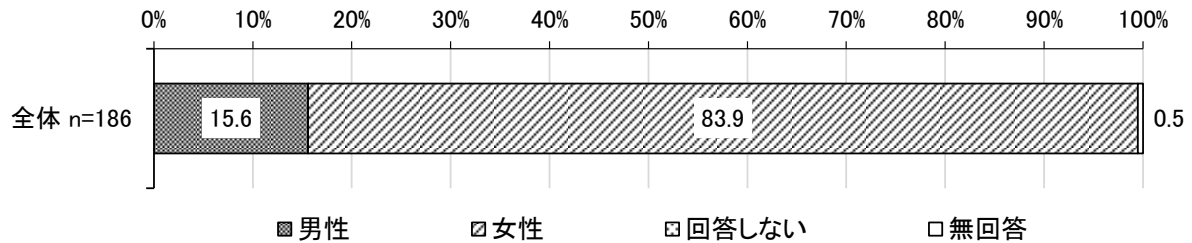


### Ⅲ 障害者のお世話をしているケアラー本人の調査結果

## 1. ケアラー自身のことについて

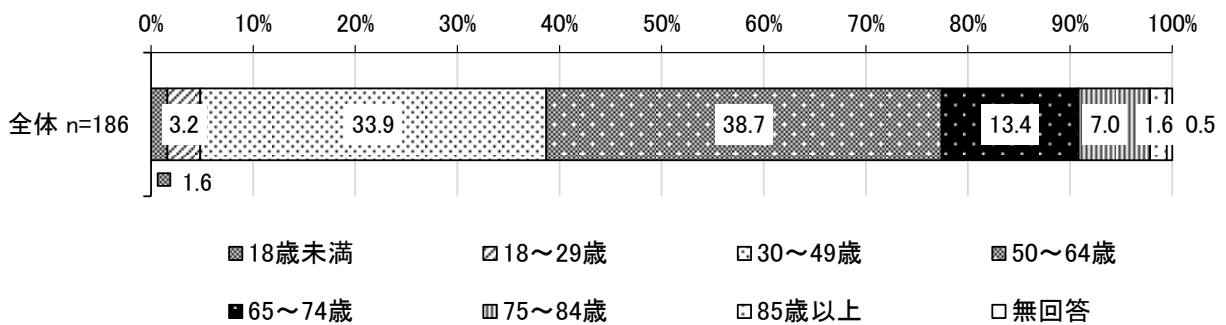
### (1) ケアラー自身の性別

本調査の回答者の性別については、「男性」が15.6%、「女性」が83.9%となっています。



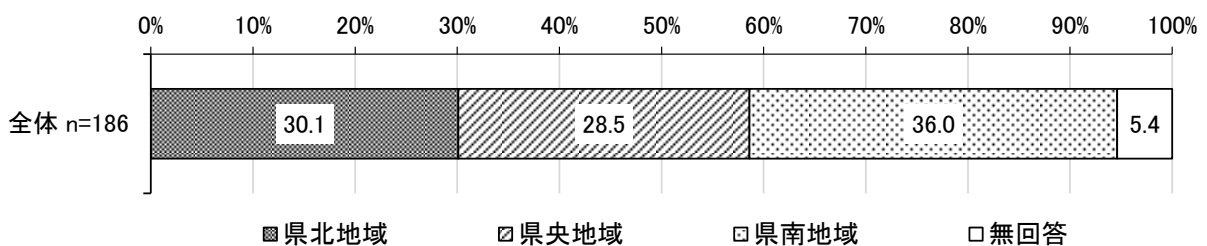
### (2) ケアラー自身の年齢（令和5年4月1日時点）

本調査の回答者の年齢については、「50～64歳」が38.7%で最も高く、次いで「30～49歳」が33.9%、「65～74歳」が13.4%となっています。



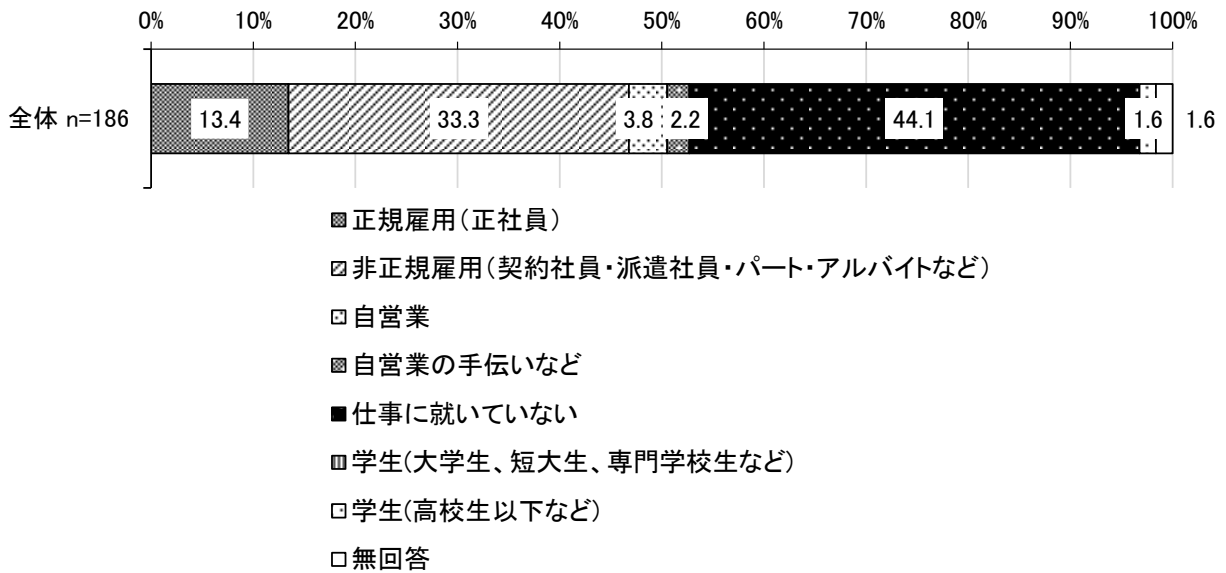
### (3) ケアラー自身の居住地（地域）

本調査の回答者のお住まいの地域については、「県南地域」が36.0%で最も高く、次いで「県北地域」が30.1%、「県央地域」が28.5%となっています。



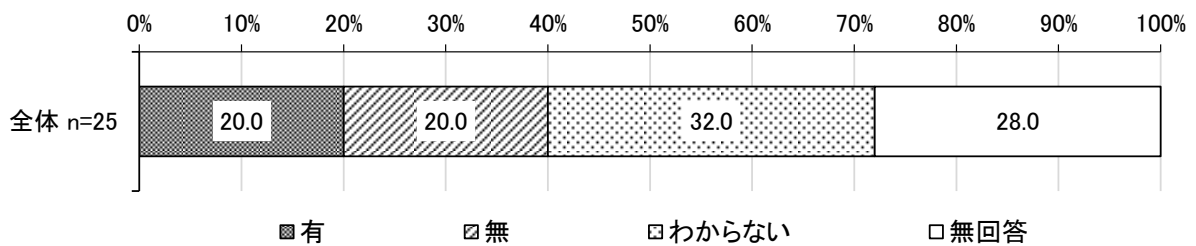
#### (4) ケアラー自身の就労状況

本調査の回答者の就労状況については、「仕事に就いていない」が44.1%で最も高く、次いで「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」が33.3%、「正規雇用（正社員）」が13.4%となっています。



#### 介護休暇制度の有無【「正規雇用（正社員）」を選んだ場合に限る】

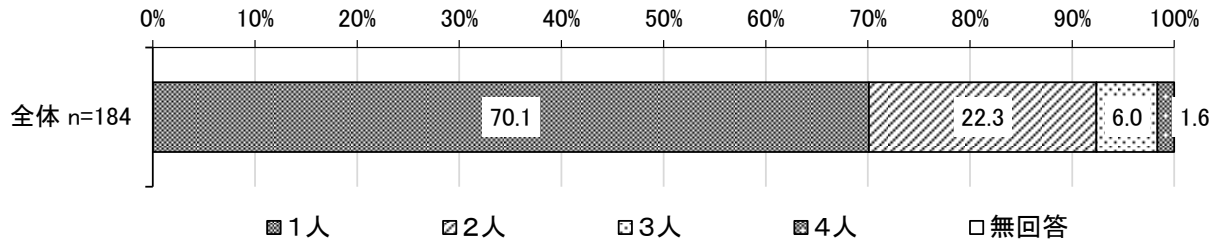
本調査の回答者の介護休暇制度の有無については、「有」、「無」がともに20.0%、「わからない」が32.0%となっています。



## 2. お世話が必要な人のことについて

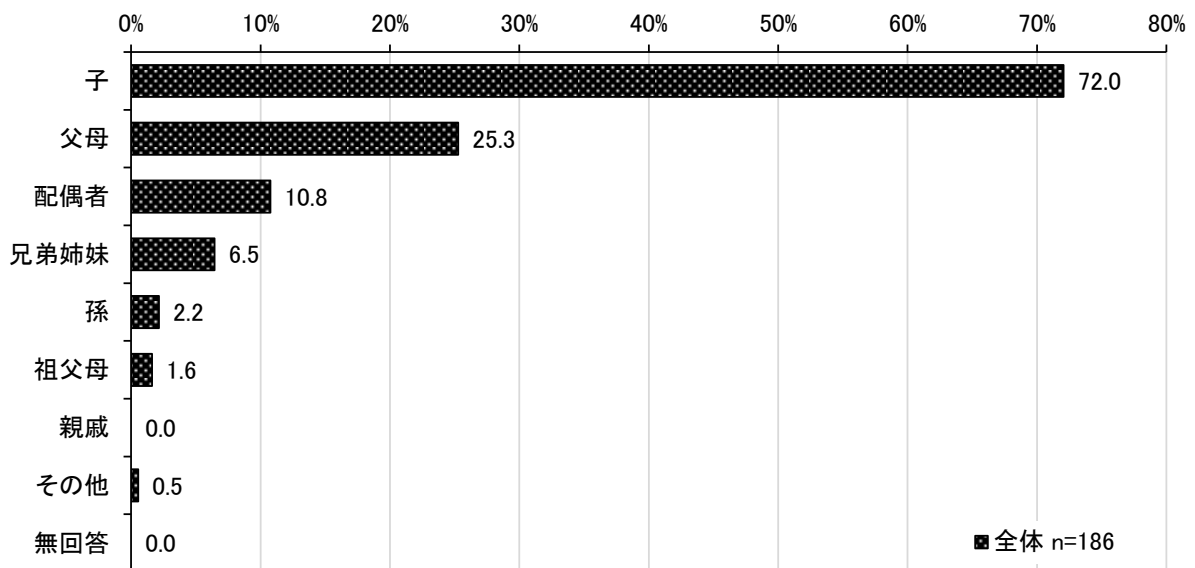
### (5) - 1 お世話が必要な人の数（義理の関係なども含む。以下の質問も同じ。）

お世話が必要な人の数については、「1人」が70.1%で最も高く、次いで「2人」が22.3%、「3人」が6.0%となっています。



### (5) - 2 お世話が必要な人との関係（複数回答）

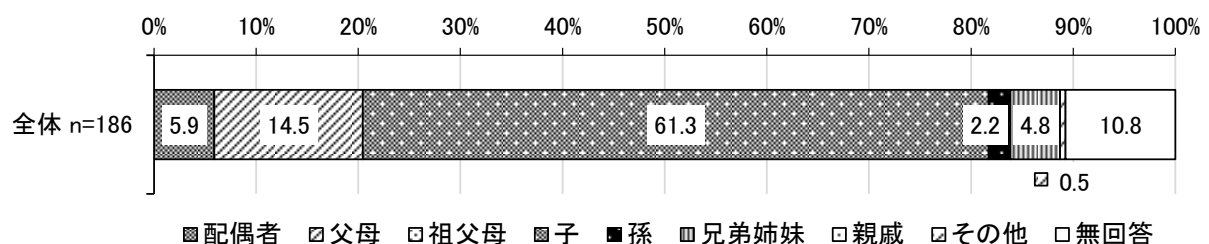
お世話が必要な人との関係については、「子」が72.0%で最も高く、次いで「父母」が25.3%、「配偶者」が10.8%となっています。



### (5) - 3 お世話が一番大変な人との関係

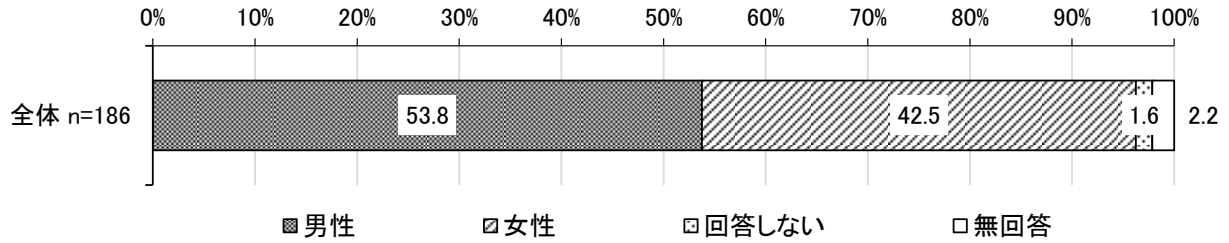
(※お世話が必要な人が複数人いる場合は、お世話が一番大変な人のことを回答。以下の質問も同じ。)

お世話が一番大変な人との関係については、「子」が61.3%で最も高く、次いで「父母」が14.5%、「配偶者」が5.9%となっています。



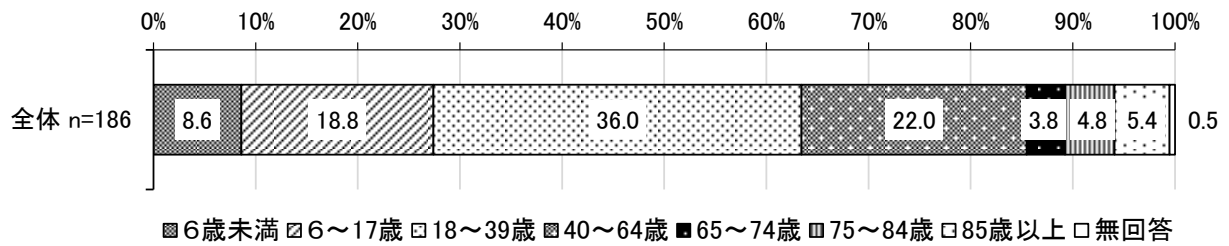
**(6) お世話が必要な人の性別**

お世話が必要な人の性別については、「男性」が53.8%、「女性」が42.5%、「回答しない」が1.6%となっています。



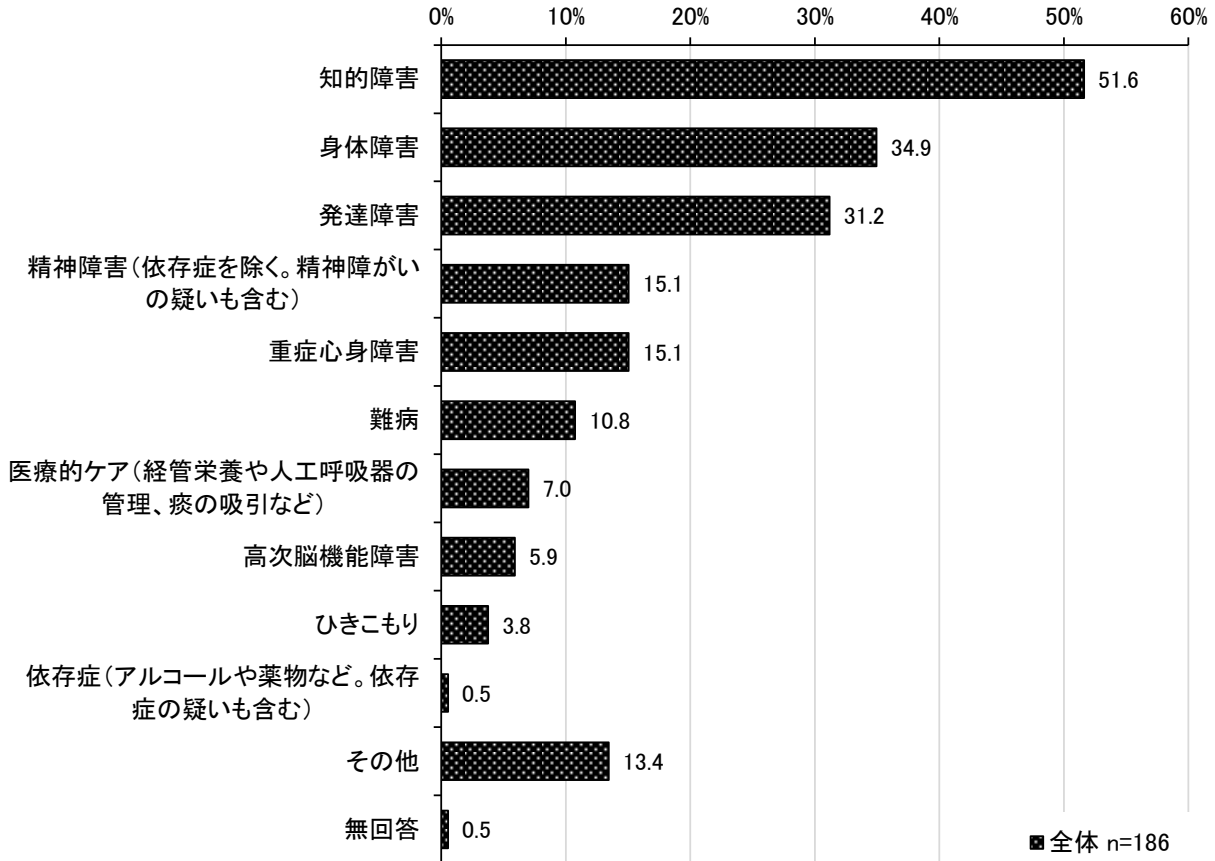
**(7) お世話が必要な人の年齢（令和5年4月1日時点）**

お世話が必要な人の年齢については、「18～39歳」が36.0%で最も高く、次いで「40～64歳」が22.0%、「6～17歳」が18.8%となっています。



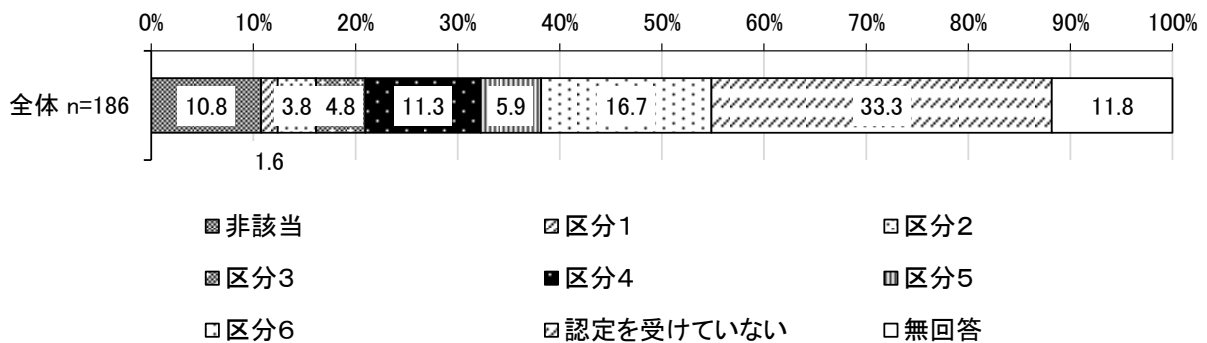
**(8) お世話が必要な理由（複数回答）**

お世話が必要な理由については、「知的障害」が51.6%で最も高く、次いで「身体障害」が34.9%、「発達障害」が31.2%となっています。



**(9) お世話が必要な人の障害者総合支援法上の障害支援区分**

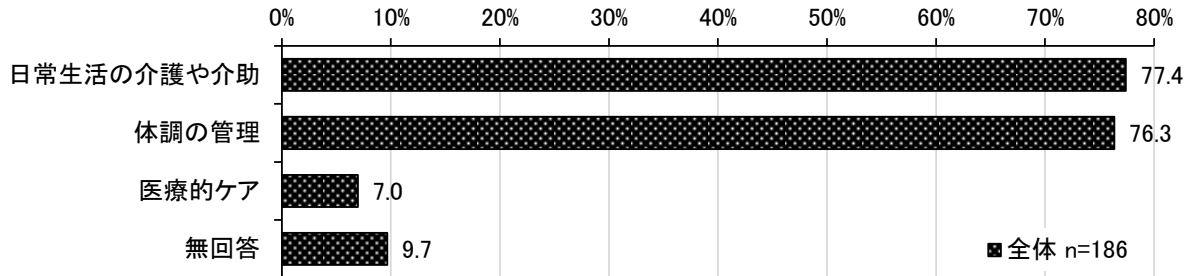
お世話が必要な人の障害者総合支援法上の障害支援区分については、「認定を受けていない」が33.3%で最も高く、次いで「区分6」が16.7%、「区分4」が11.3%となっています。



**(10) お世話をしている内容（複数回答）**

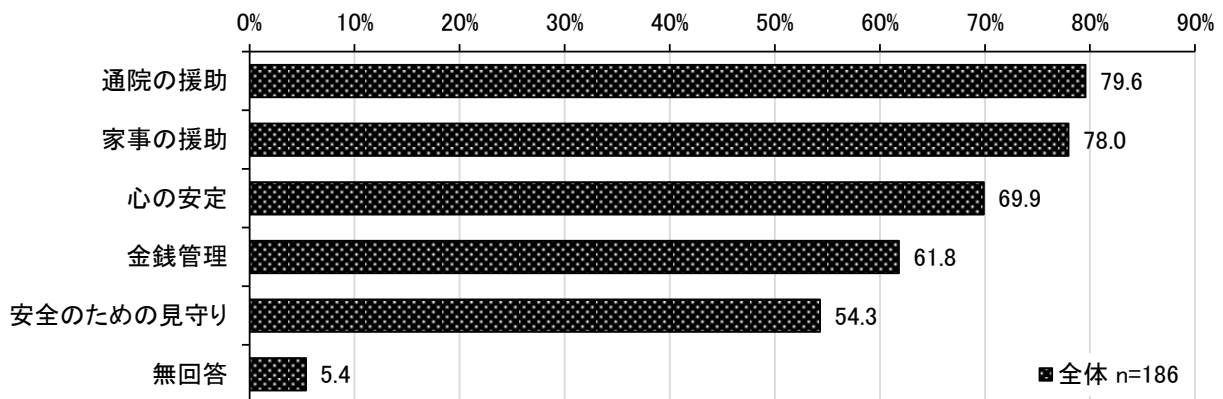
**【A 身体的介護や介助のこと】**

身体的介護や介助のことについては、「日常生活の介護や介助」が77.4%で最も高く、次いで「体調の管理」が76.3%、「医療的ケア」が7.0%となっています。



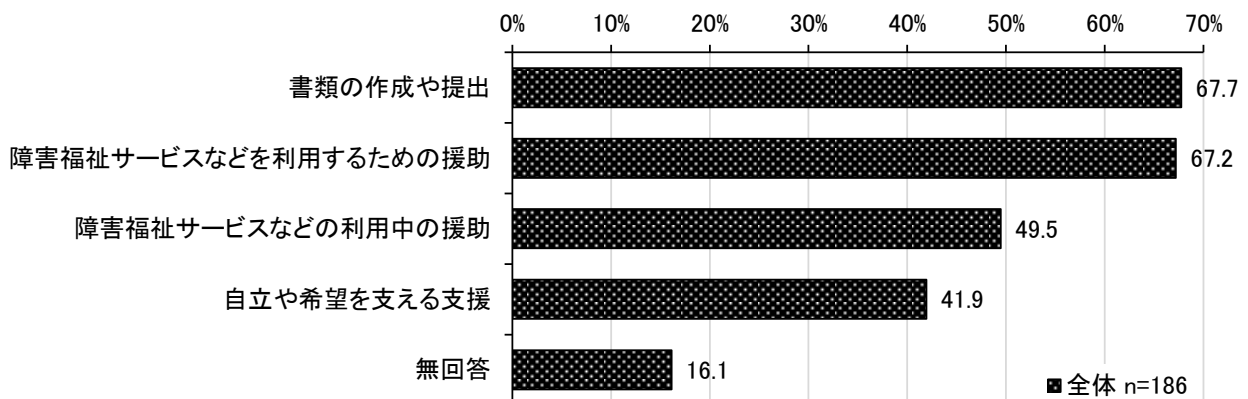
**【B 日々の暮らしに関すること】**

日々の暮らしに関することについては、「通院の援助」が79.6%で最も高く、次いで「家事の援助」が78.0%、「心の安定」が69.9%となっています。



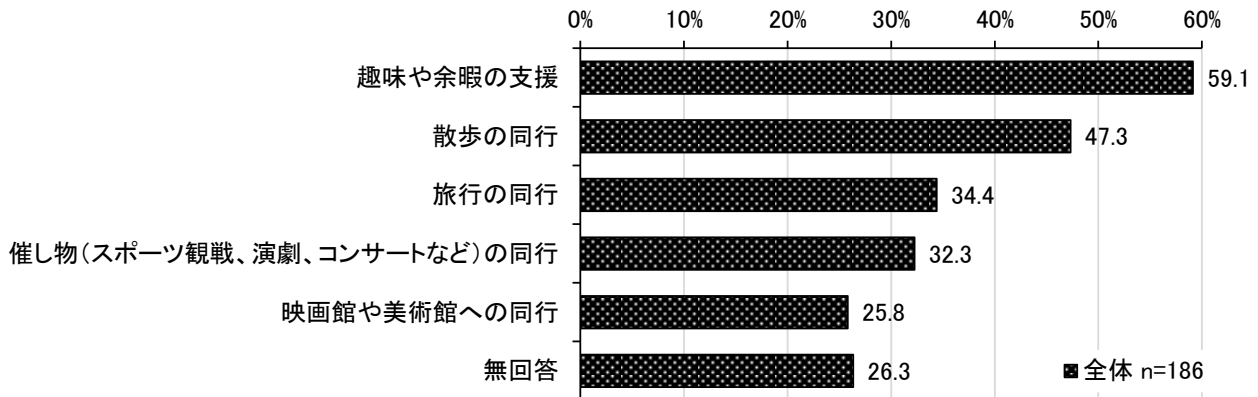
**【C サービスの利用に関すること】**

サービスの利用に関することについては、「書類の作成や提出」が67.7%で最も高く、次いで「障害福祉サービスなどを利用するための援助」が67.2%、「障害福祉サービスなどの利用中の援助」が49.5%となっています。



## 【D 趣味や余暇活動に関すること】

趣味や余暇活動に関することについては、「趣味や余暇の支援」が59.1%で最も高く、次いで「散歩の同行」が47.3%、「旅行の同行」が34.4%となっています。



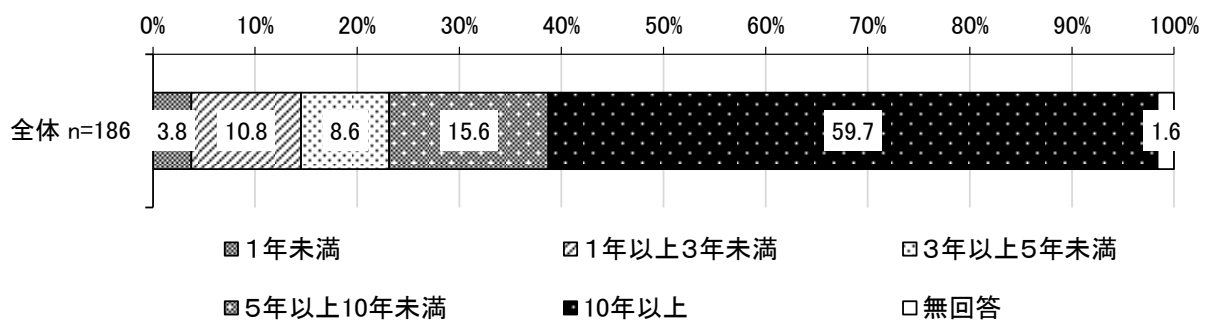
## 【E その他】 以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

- ・入院時の付き添い。
- ・買い物。
- ・全盲である為転倒時等リスク管理（慣れていない場所への移動や初めて行く場所）。
- ・在宅中の見守り。
- ・口腔ケア。

## (11) お世話をしている期間

お世話をしている期間については、「10年以上」が59.7%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が15.6%、「1年以上3年未満」が10.8%となっています。

「10年以上」と回答した割合が約6割を占めており、長期間ケアを担っているケアラーが多い傾向にあります。

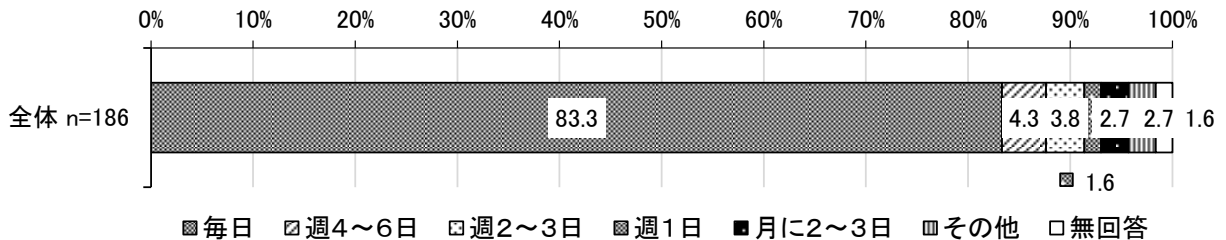




### (12) お世話をしている頻度

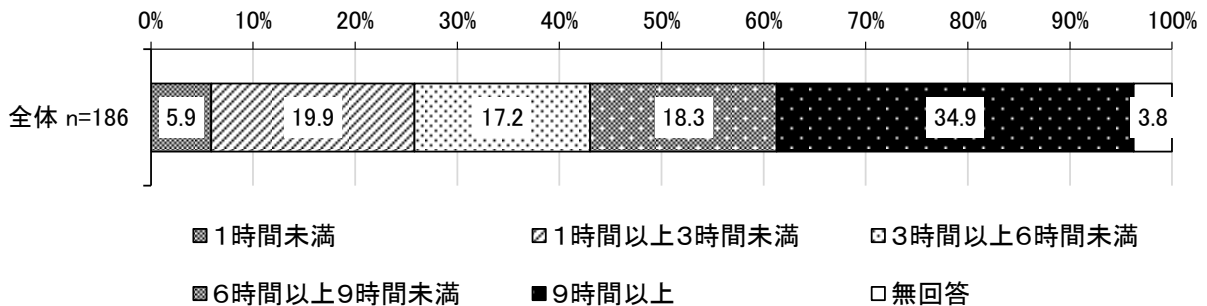
お世話をしている頻度については、「毎日」が 83.3%で最も高く、次いで「週4～6日」が 4.3%、「週2～3日」が 3.8%となっています。

「毎日」と回答した割合が8割を超えているなど、お世話をしている頻度が高い方が多い傾向にあります。



### (13) 1日あたりのお世話をしている時間

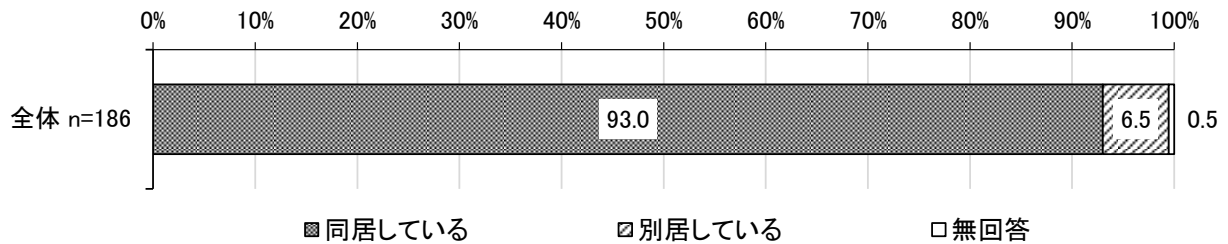
1日あたりのお世話をしている時間については、「9時間以上」が 34.9%で最も高く、次いで「1時間以上3時間未満」が 19.9%、「6時間以上9時間未満」が 18.3%となっています。



### 3. ケアラー自身の家族のことについて

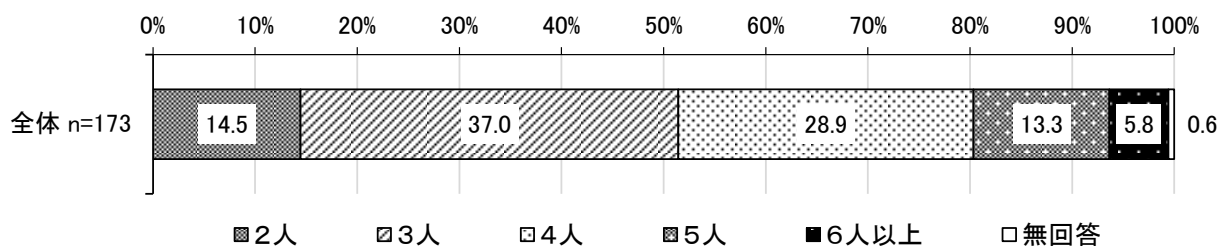
#### (14) お世話が必要な家族との同居・別居の状況

お世話が必要な家族との同居・別居の状況については、「同居している」が93.0%、「別居している」が6.5%となっています。



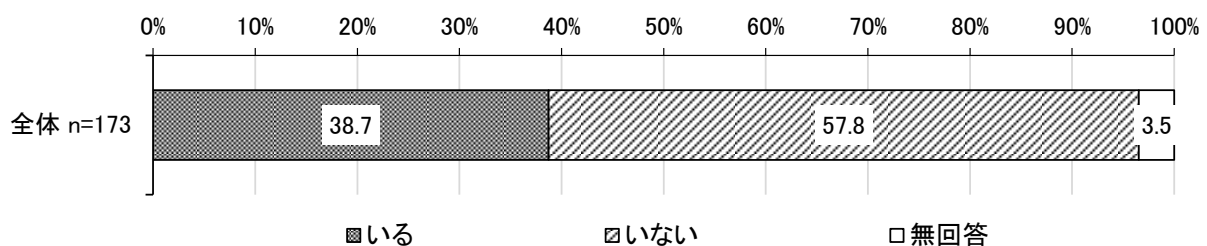
#### (15) 世帯人数【(14)で「同居」と回答した場合】

お世話が必要な家族と同居している場合の世帯人数については、「3人」が37.0%で最も高く、次いで「4人」が28.9%、「2人」が14.5%となっています。



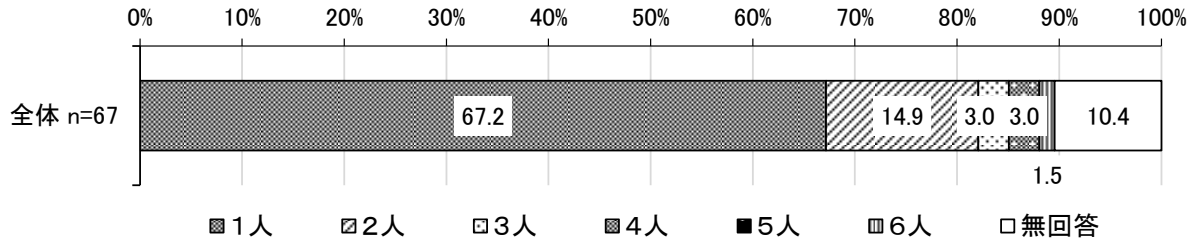
#### (16) 他にもお世話が必要な家族の有無【(14)で「同居」と回答した場合】

他にもお世話が必要な家族の有無については、「いる」が38.7%、「いない」が57.8%となっています。



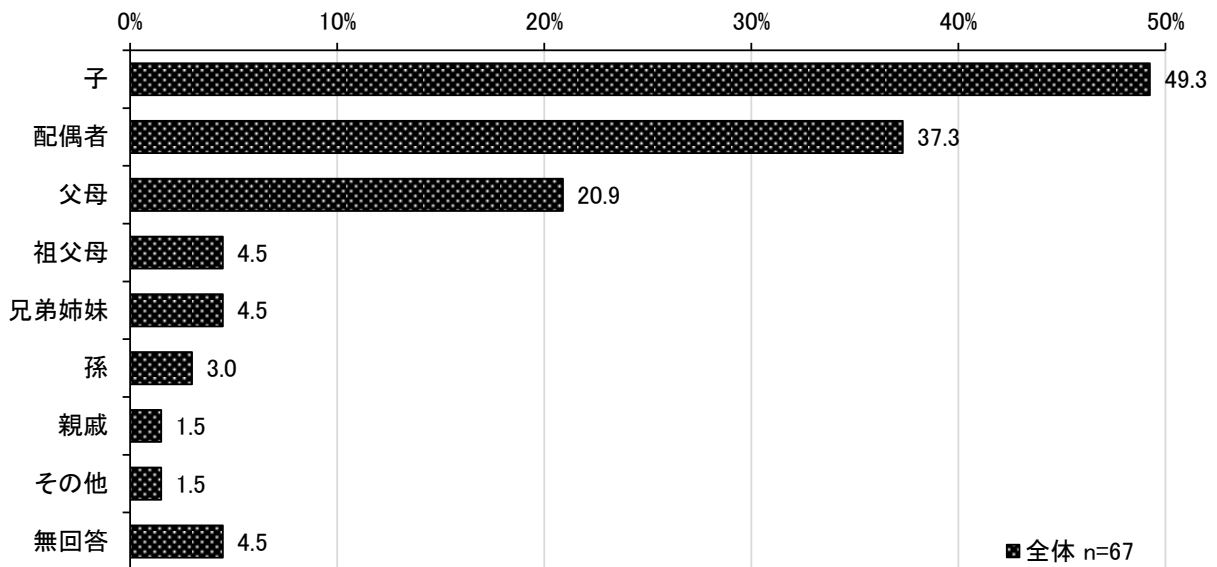
### 【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数】

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数については、「1人」が67.2%、「2人」が14.9%となっています。



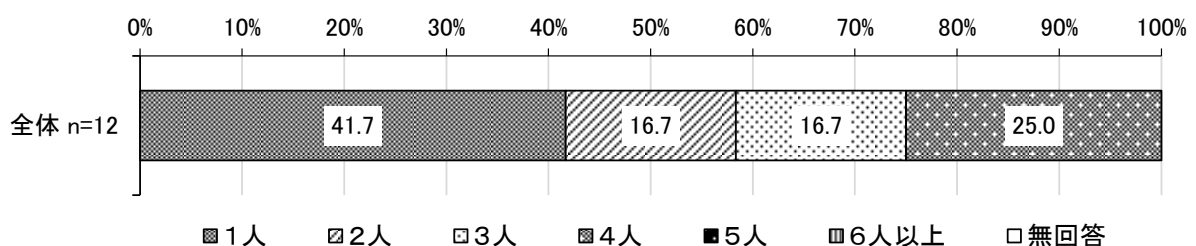
### 【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係】

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係については、「子」が49.3%で最も高く、次いで「配偶者」が37.3%、「父母」が20.9%となっています。



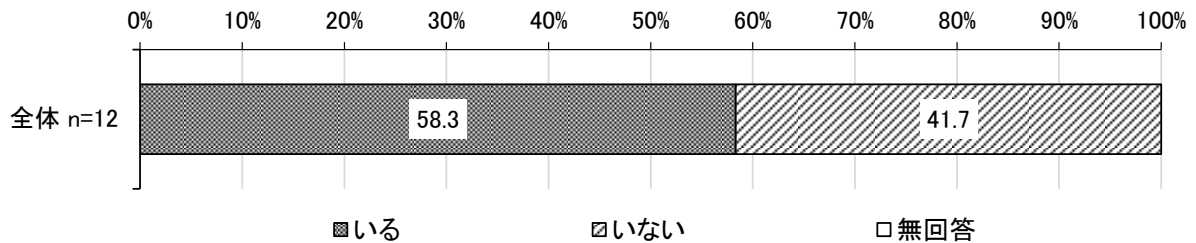
### (17) 世帯人数【(14)で「別居」と回答した場合】

お世話が必要な人の世帯人数については、「1人」が41.7%で最も高く、次いで「4人」が25.0%、「2人」、「3人」がともに16.7%となっています。

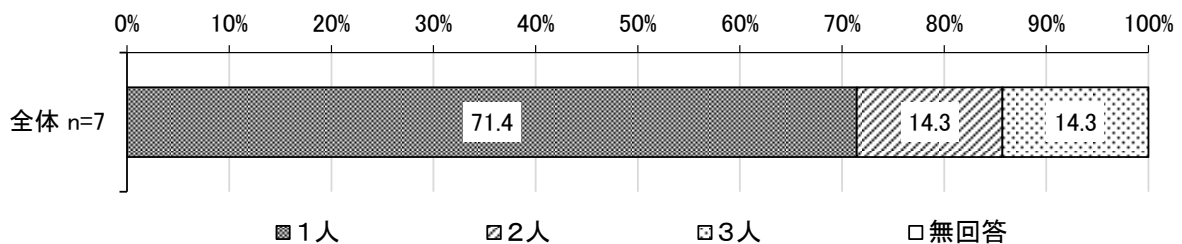


**(18) 他にもお世話が必要な家族の有無【(14)で「別居」と回答した場合】**

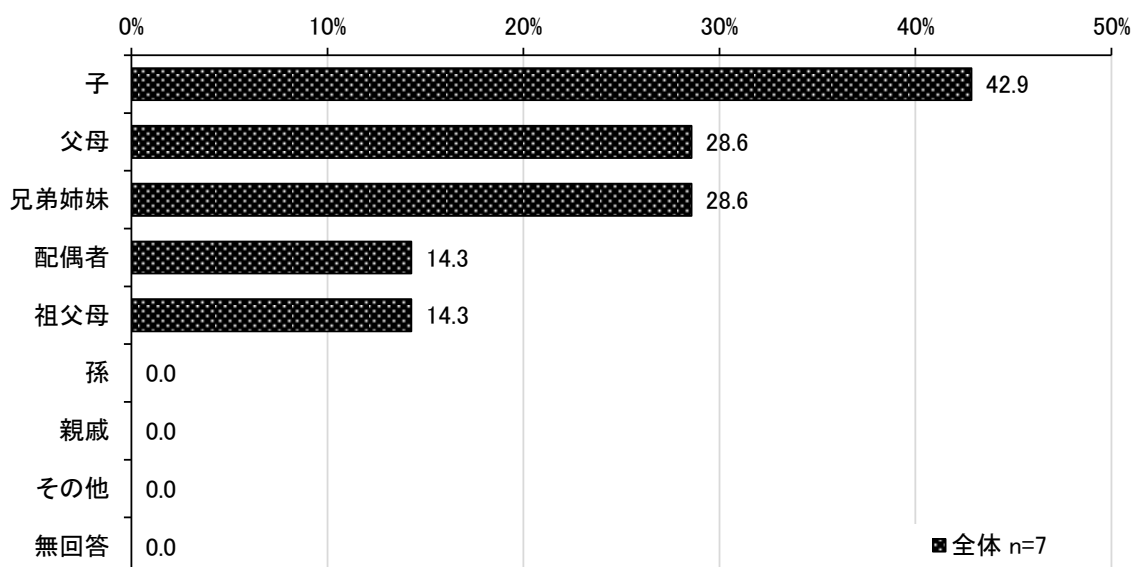
他にもお世話が必要な家族の有無については、「いる」が58.3%、「いない」が41.7%となっています。

**【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数】**

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数については、「1人」が71.4%、「2人」、「3人」がともに14.3%となっています。

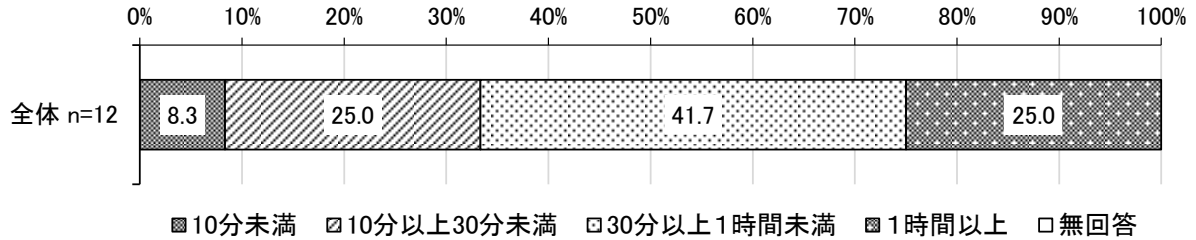
**【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係】**

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係については、「子」が42.9%で最も高く、次いで「父母」、「兄弟姉妹」がともに28.6%、「配偶者」、「祖父母」がともに14.3%となっています。



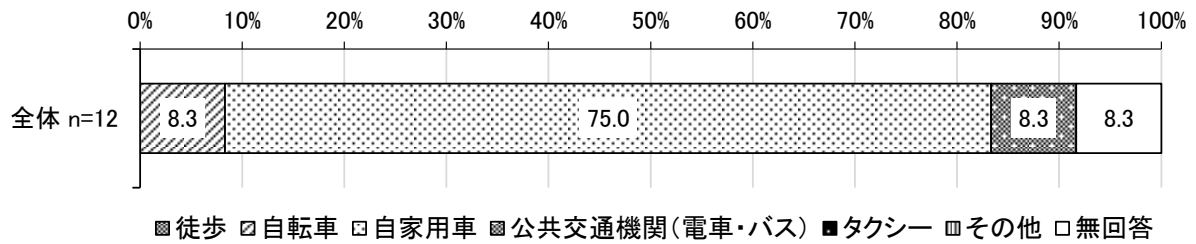
**(19) お世話が必要な家族の家までの所要時間【(14)で「別居」と回答した場合】**

お世話が必要な家族の家までの所要時間については、「30分以上1時間未満」が41.7%で最も高く、次いで「10分以上30分未満」、「1時間以上」がともに25.0%、「10分未満」が8.3%となっています。



**(20) お世話が必要な家族の家までの移動手段【(14)で「別居」と回答した場合】**

お世話が必要な家族の家までの移動手段については、「自家用車」が75.0%で最も高く、次いで「自転車」、「公共交通機関（電車・バス）」がともに8.3%となっています。



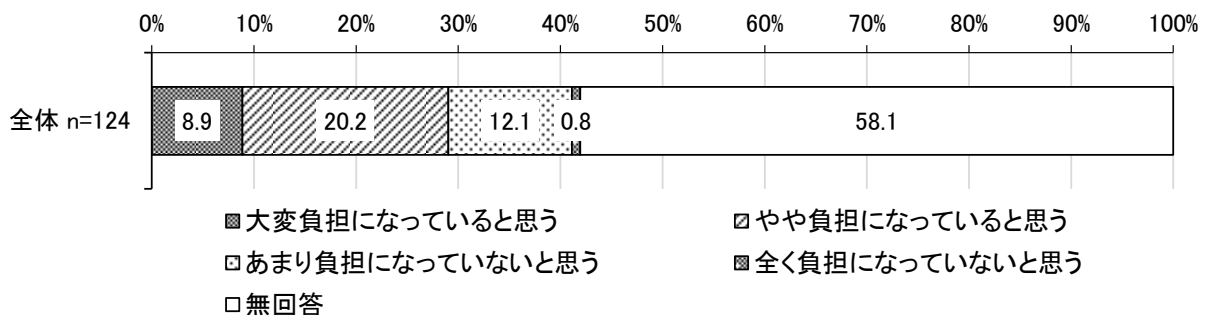
**(21) 日常にお世話を分担してくれる家族の有無（複数回答）**

日常にお世話を分担してくれる家族については、「配偶者」が45.7%で最も高く、次いで「いない」が26.9%、「父母」が16.1%となっています。



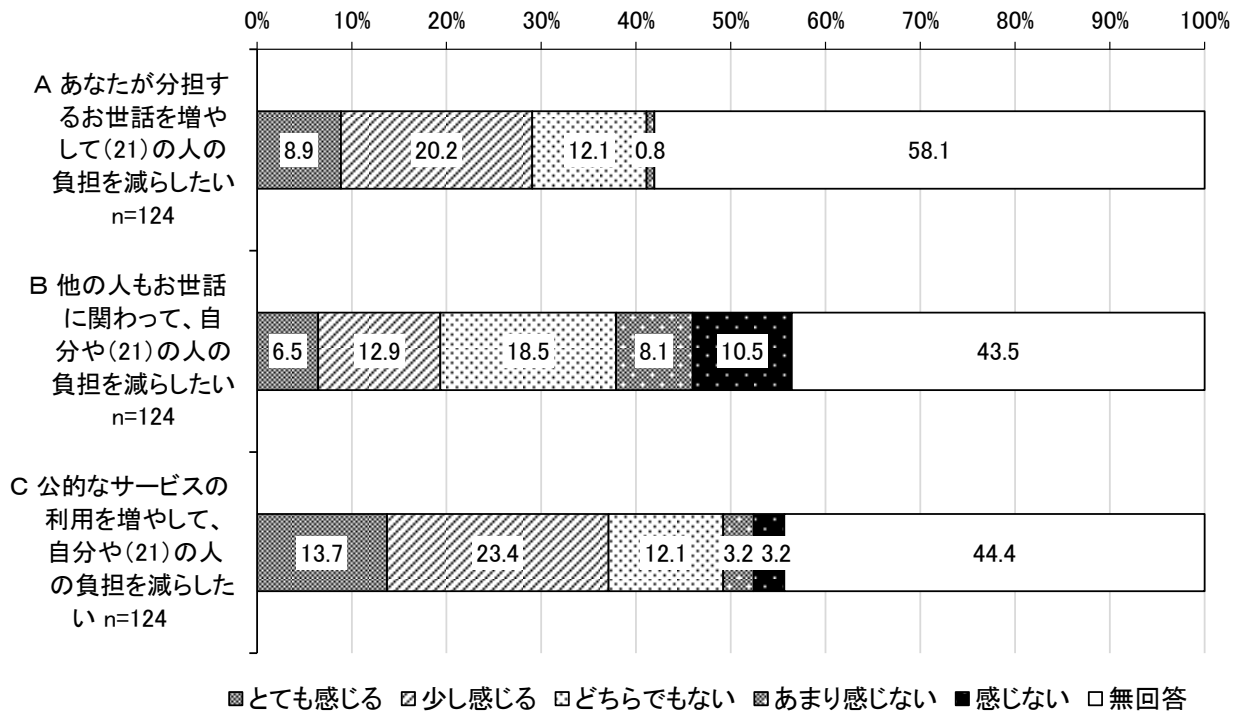
**(22) 日常にお世話を分担してくれる家族のお世話することへの負担感【(21)で「いない」以外を選択した場合】**

日常にお世話を分担してくれる家族がお世話することにどの程度負担を感じているかについては、「やや負担になっていると思う」が20.2%で最も高く、次いで「あまり負担になっていないと思う」が12.1%、「大変負担になっていると思う」が8.9%となっています。



**(23) 日常にお世話を分担してくれる家族とお世話の分担について感じる事【(21)で「いない」以外を選択した場合】**

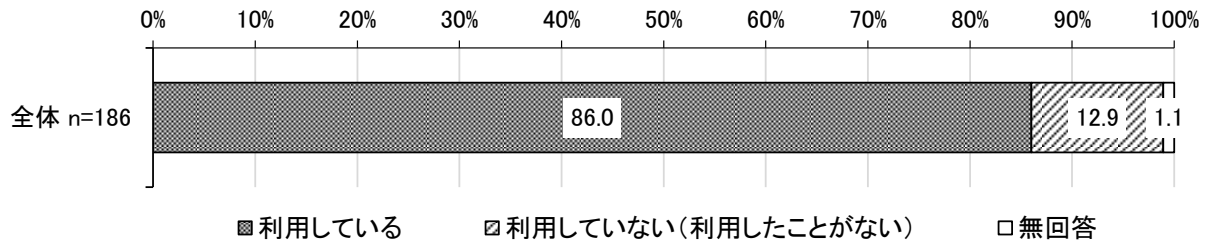
日常にお世話を分担してくれる家族とお世話の分担について感じる事については、『感じる(とても感じる+少し感じる)』では、「C 公的なサービスの利用を増やして、自分や(21)の人の負担を減らしたい」が37.1%で最も高く、次いで「A あなたが分担するお世話を増やして(21)の人の負担を減らしたい」が29.1%、「B 他の人もお世話に関わって、自分や(21)の人の負担を減らしたい」が19.4%となっています。



## 4. お世話が必要な人のサービス（公的支援・制度）利用状況について

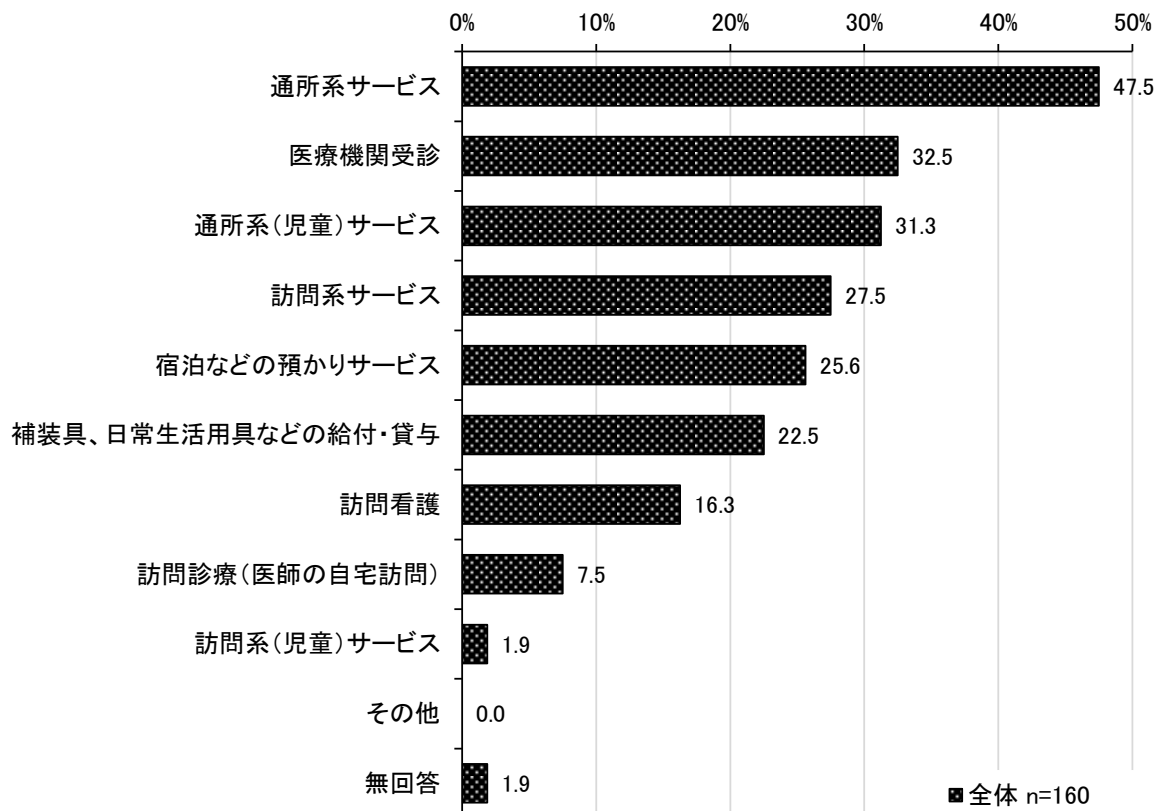
### (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無については、「利用している」が86.0%、「利用していない（利用したことがない）」が12.9%となっています。



### (25) 利用している（したことがある）サービスの種類（複数回答）

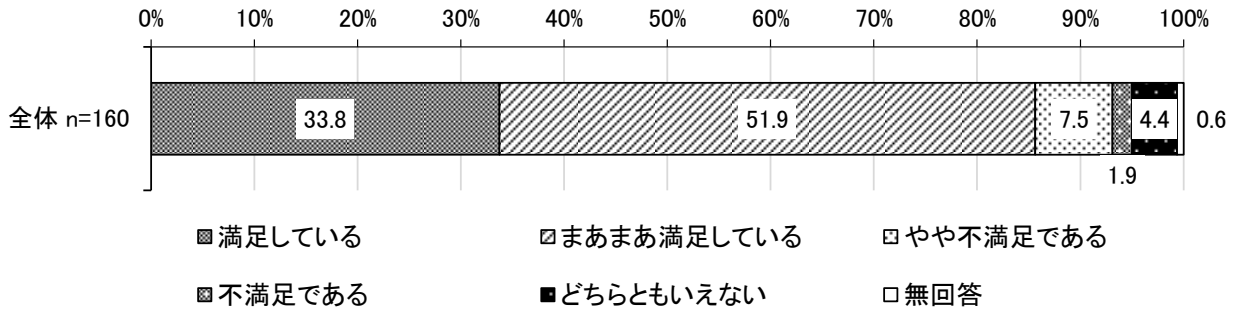
利用している（したことがある）サービスの種類については、「通所系サービス」が47.5%で最も高く、次いで「医療機関受診」が32.5%、「通所系（児童）サービス」が31.3%となっています。





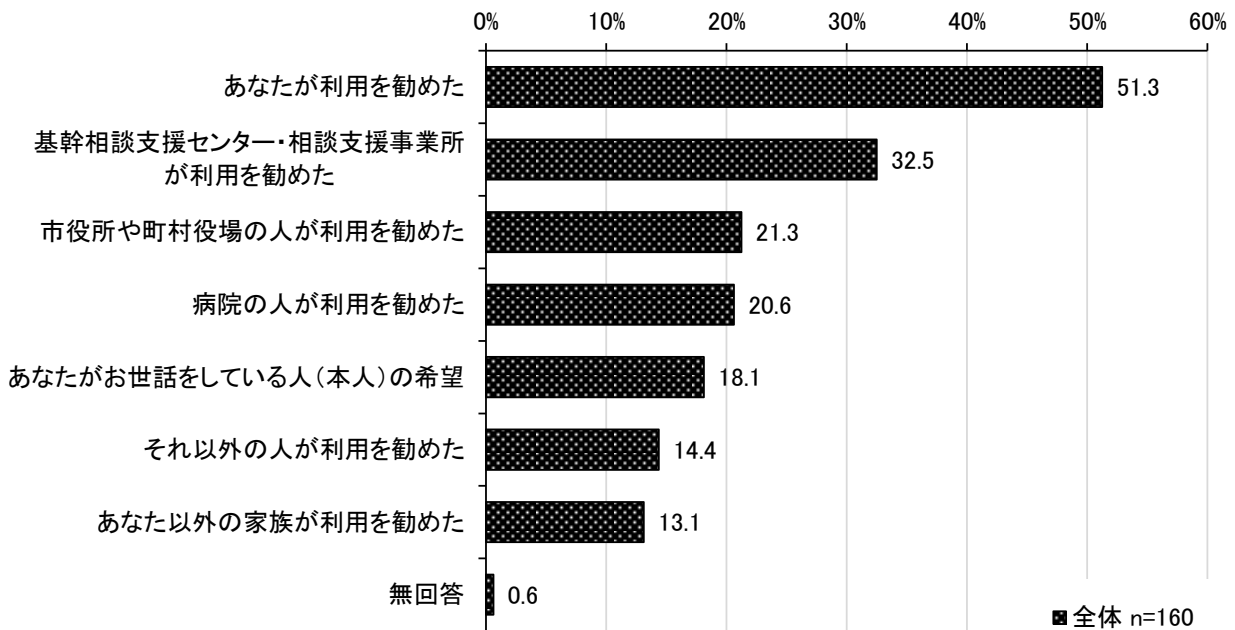
### (26) 利用しているサービスへの満足感

利用しているサービスについては、『満足している(満足している+まあまあ満足している)』が85.7%、一方、『満足していない(やや不満足である+不満足である)』が9.4%となっています。



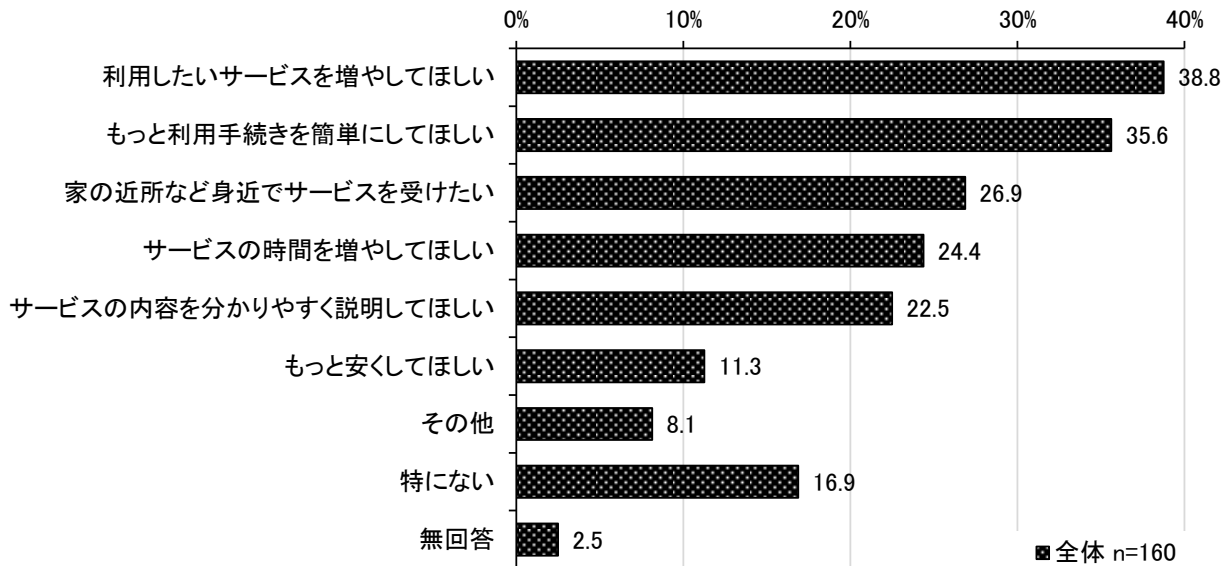
### (27) サービス利用のきっかけ (複数回答)

サービス利用のきっかけについては、「あなたが利用を勧めた」が51.3%で最も高く、次いで「基幹相談支援センター・相談支援事業所が利用を勧めた」が32.5%、「市役所や町村役場の人が利用を勧めた」が21.3%となっています。



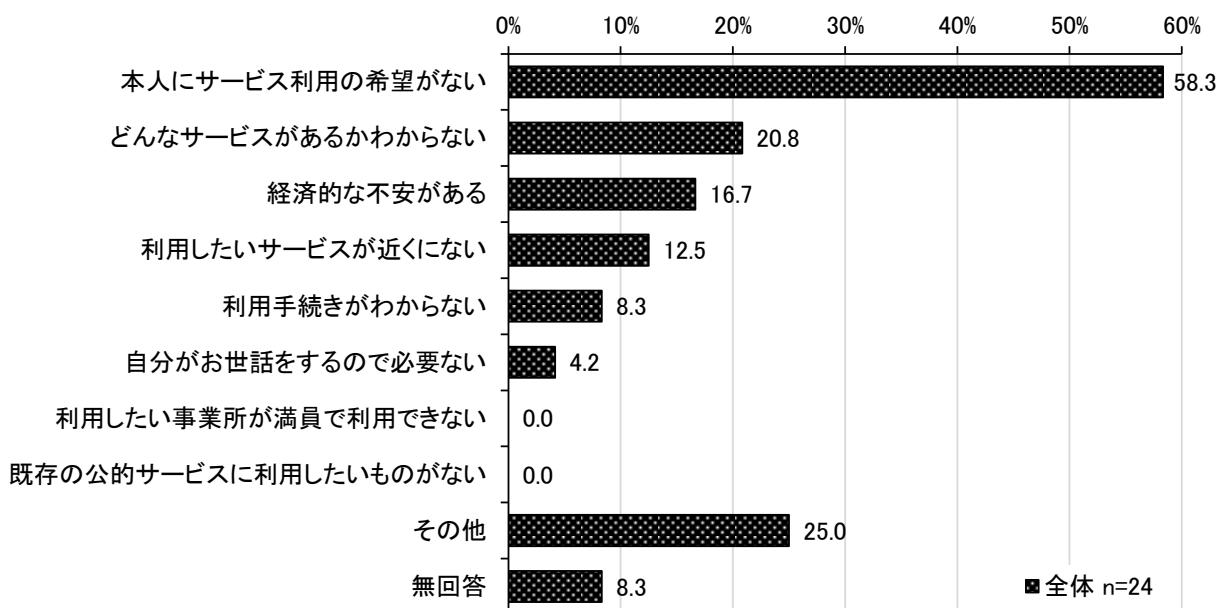
**(28) サービス利用にあたり必要な配慮（複数回答）**

サービス利用にあたり必要な配慮については、「利用したいサービスを増やしてほしい」が38.8%で最も高く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が35.6%、「家の近所など身近でサービスを受けたい」が26.9%となっています。



**(29) サービス事業所を利用していない（利用したことがない）理由（複数回答）【(24)で「利用していない（利用したことがない）」を選んだ場合】**

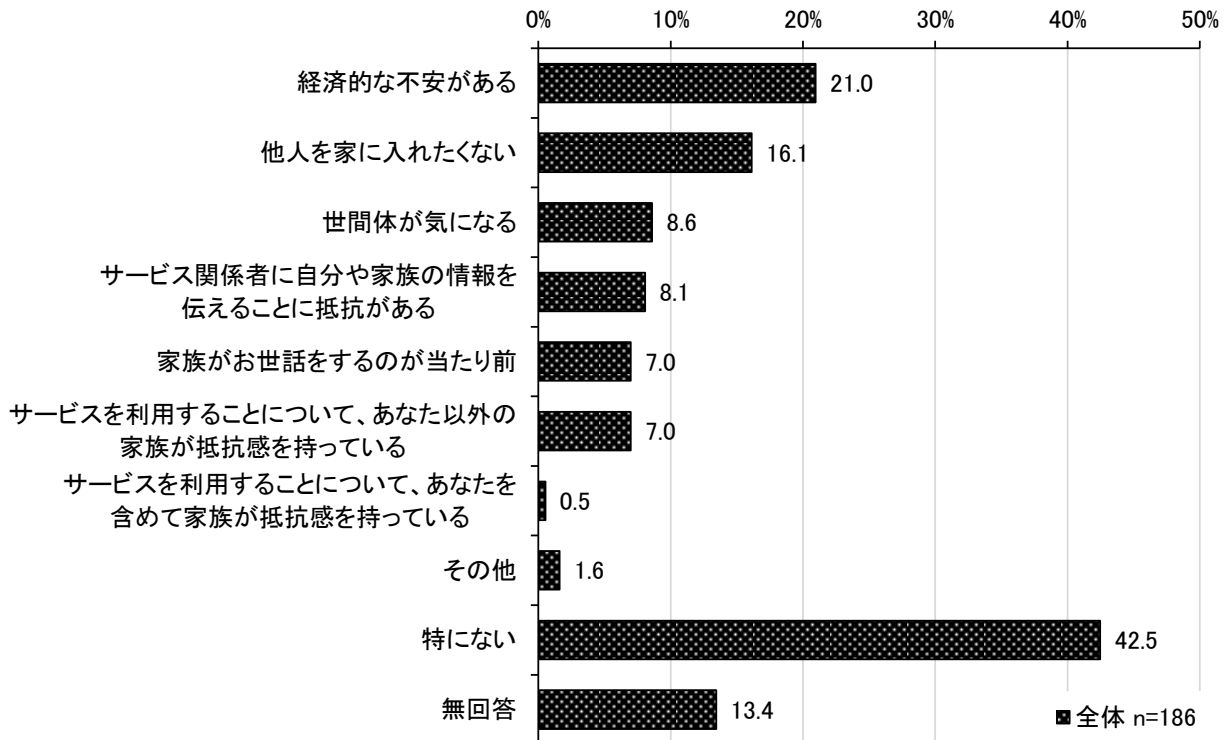
サービス事業所を利用していない（利用したことがない）理由については、「本人にサービス利用の希望がない」が58.3%で最も高く、次いで「どんなサービスがあるかわからない」が20.8%、「経済的な不安がある」が16.7%となっています。



**(30) サービスの利用に対する抵抗感（複数回答）**

サービスの利用に対する抵抗感については、「特にない」が42.5%と最も高く、次いで「経済的な不安がある」が21.0%、「他人を家に入れたくない」が16.1%となっています。

ケアラー自身が、お世話のためにサービスを利用することに対する抵抗感は低い傾向にあります。

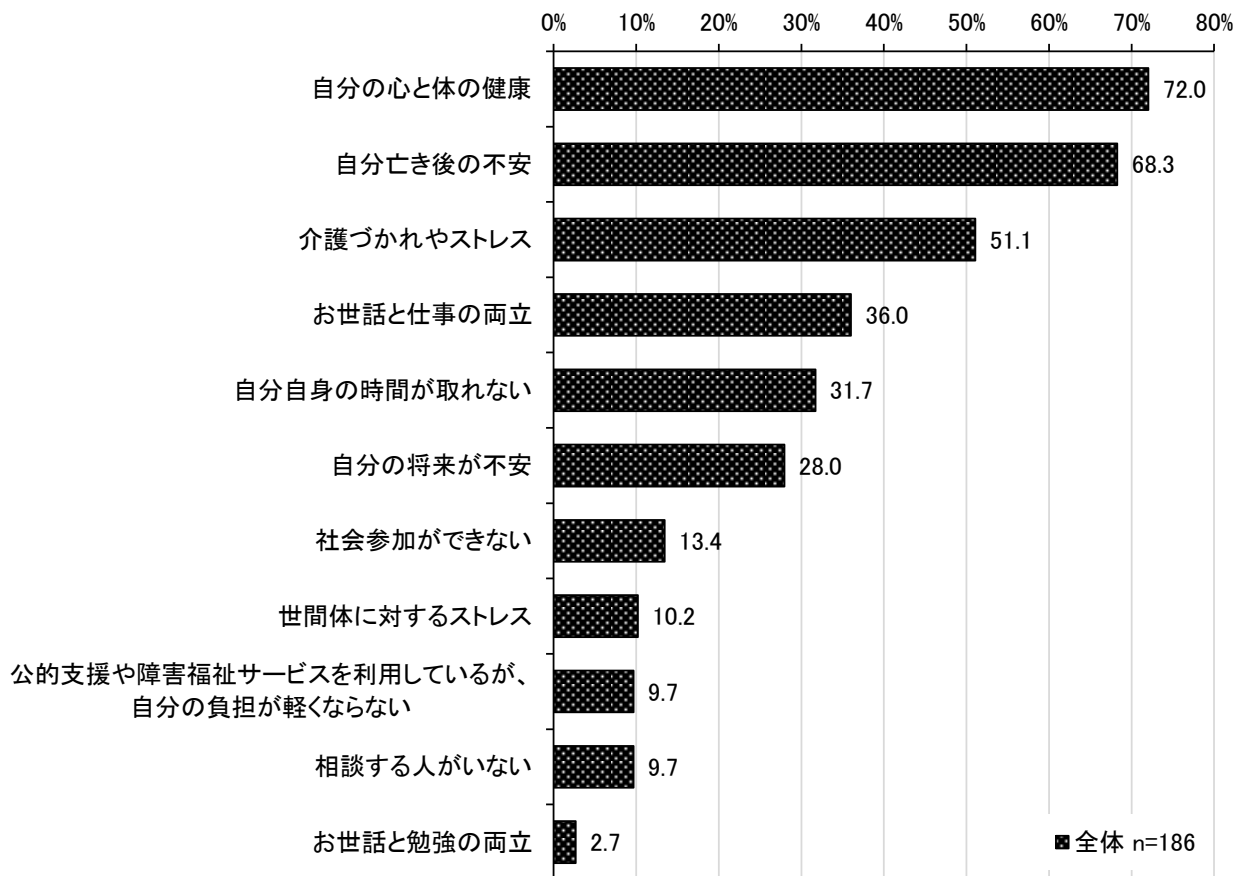


## 5. ケアラー自身の生活状況等について

### (31) お世話をする上で困っていることや悩んでいること（複数回答）

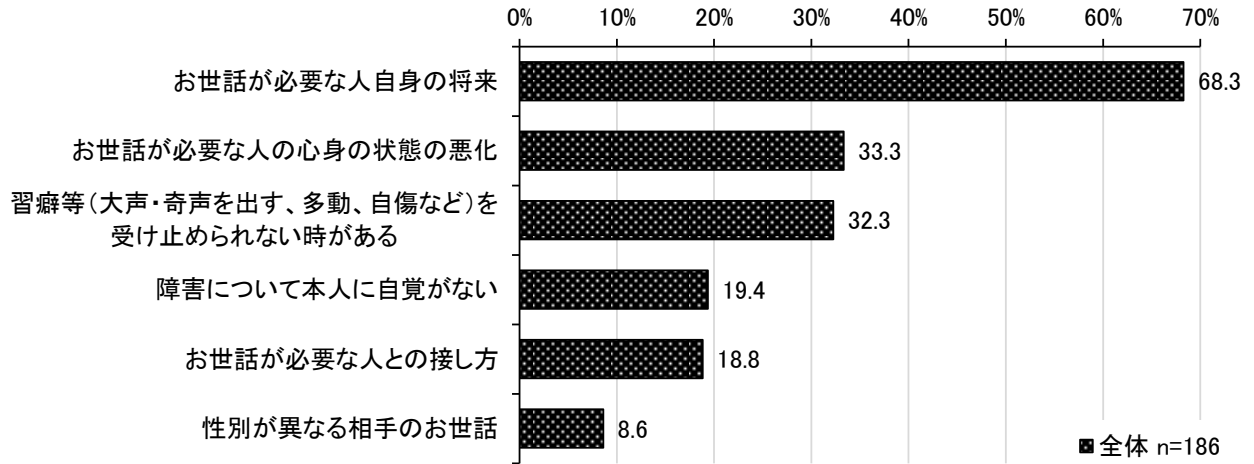
#### 【A ケアラー自身のこと】

ケアラー自身のことについては、「自分の心と体の健康」が72.0%で最も高く、次いで「自分亡き後の不安」が68.3%、「介護づかれやストレス」が51.1%となっています。



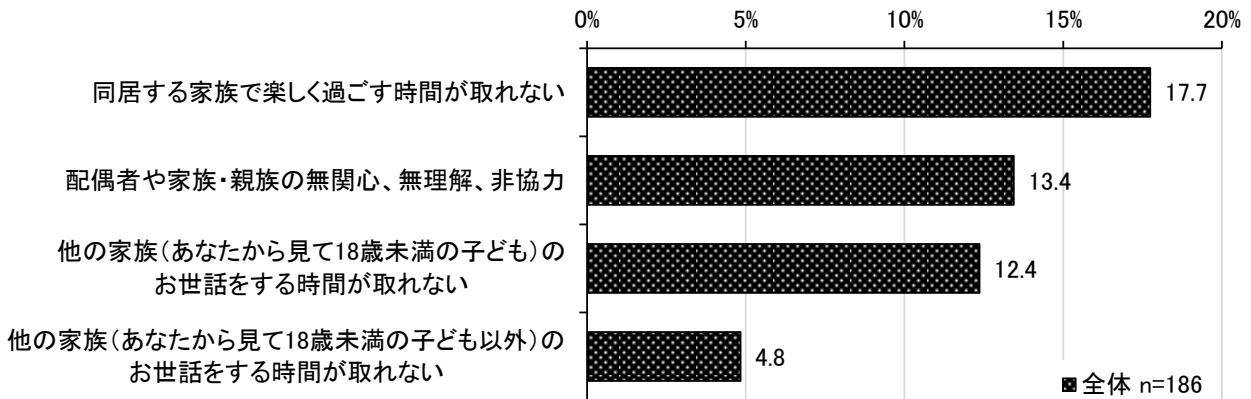
## 【B お世話が必要な人のこと】

お世話が必要な人のことについては、「お世話が必要な人自身の将来」が68.3%で最も高く、次いで「お世話が必要な人の心身の状態の悪化」が33.3%、「習癖等（大声・奇声を出す、多動、自傷など）を受け止められない時がある」が32.3%となっています。



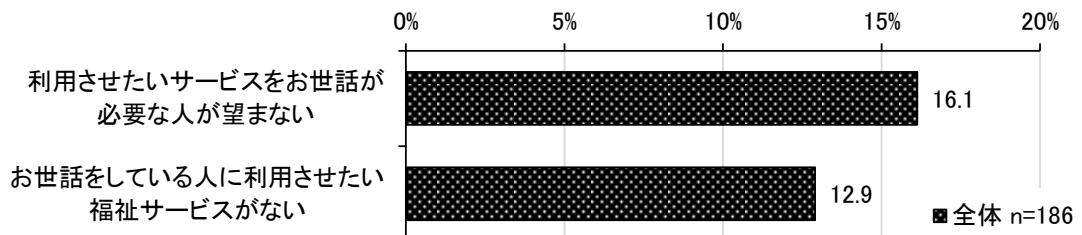
## 【C ケアラー自身の世帯や家族のこと】

ケアラー自身の世帯や家族のことについては、「同居する家族で楽しく過ごす時間が取れない」が17.7%で最も高く、次いで「配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力」が13.4%、「他の家族（あなたから見て18歳未満の子ども）のお世話をする時間が取れない」が12.4%となっています。



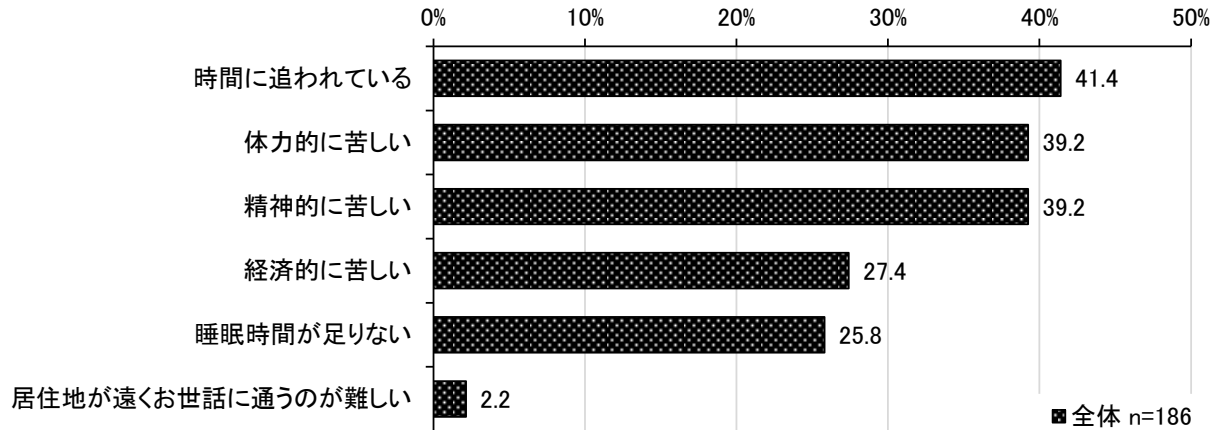
## 【D サービスの利用に関すること】

サービスの利用に関することについては、「利用させたいサービスをお世話が必要な人が望まない」が16.1%、「お世話をしている人に利用させたい福祉サービスがない」が12.9%となっています。



### 【E 日々の生活のこと】

日々の生活のことについては、「時間に追われている」が41.4%で最も高く、次いで「体力的に苦しい」、「精神的に苦しい」がともに39.2%、「経済的に苦しい」が27.4%となっています。

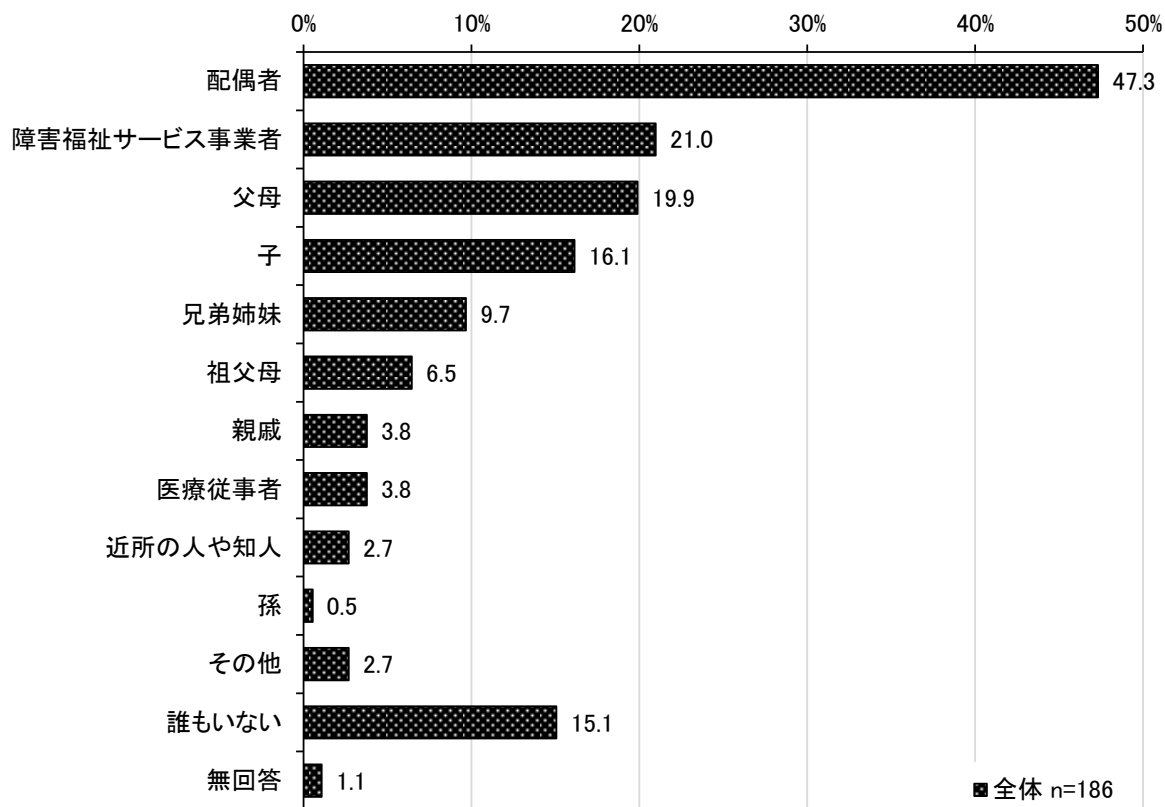


【F その他】 以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

- ・ショートステイを利用していたが断られるようになった。
- ・苦しくはありませんが時に大変です。
- ・ふとした時に不安を感じることもある。
- ・きょうだい児とのかかわり方。双子の弟に障害があり、手がかかるため兄との時間がなかなかとれない。日々忙しく、きちんと相手をしてあげることができない。
- ・サービスを利用しているが片道1時間くらいかけて送迎するのが大変。

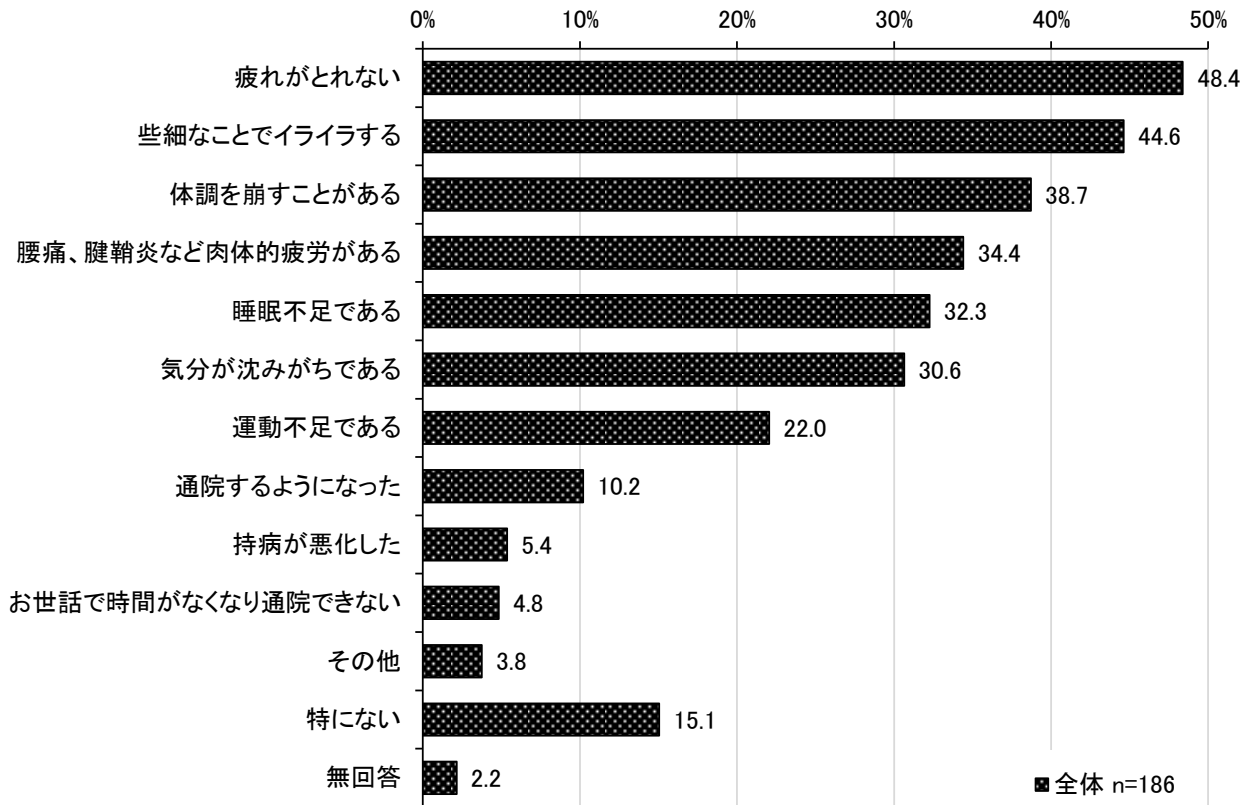
**(32) 体調不良時等に代わりにお世話をしてくれる人のこと（複数回答）**

体調不良時等に代わりにお世話をしてくれる人のことについては、「配偶者」が 47.3%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業者」が 21.0%、「父母」が 19.9%となっています。一方、「誰もいない」は 15.1%となっています。

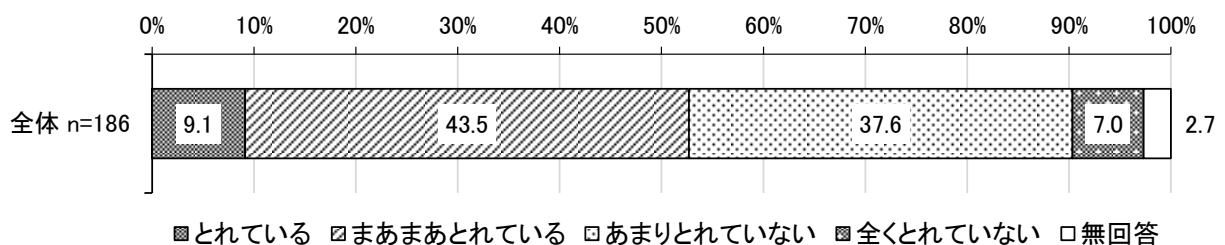


**(33) お世話をすることによる健康状態への影響（複数回答）**

お世話をすることによる健康状態への影響については、「疲れがとれない」が48.4%で最も高く、次いで「些細なことでイライラする」が44.6%、「体調を崩すことがある」が38.7%となっています。

**(34) 趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感**

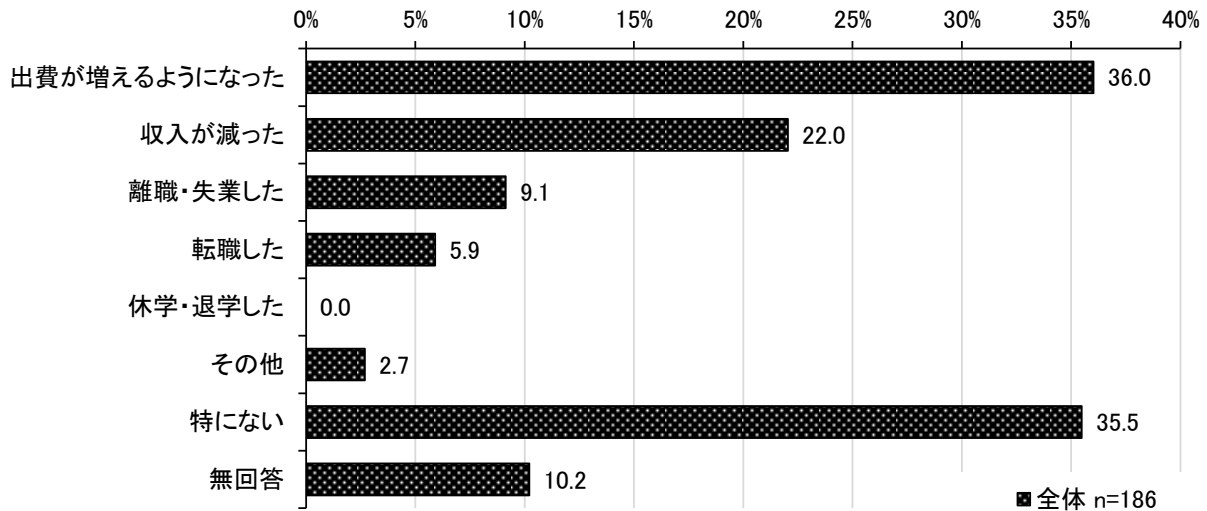
趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感については、『とれている（とれている+まあまあとれている）』が52.6%、一方『とれていない（あまりとれていない+全くとれていない）』が44.6%となっています。





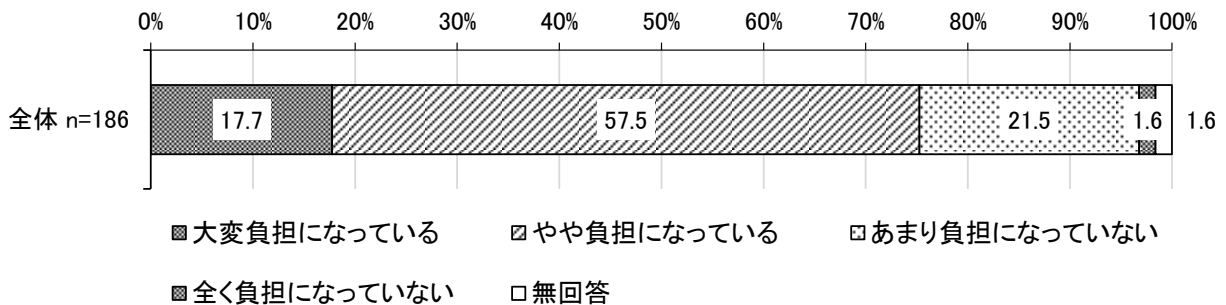
**(35) お世話をすることによる生活への影響（複数回答）**

お世話をすることによる生活への影響については、「出費が増えるようになった」が36.0%で最も高く、次いで「収入が減った」が22.0%、「離職・失業した」が9.1%となっています。



**(36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感**

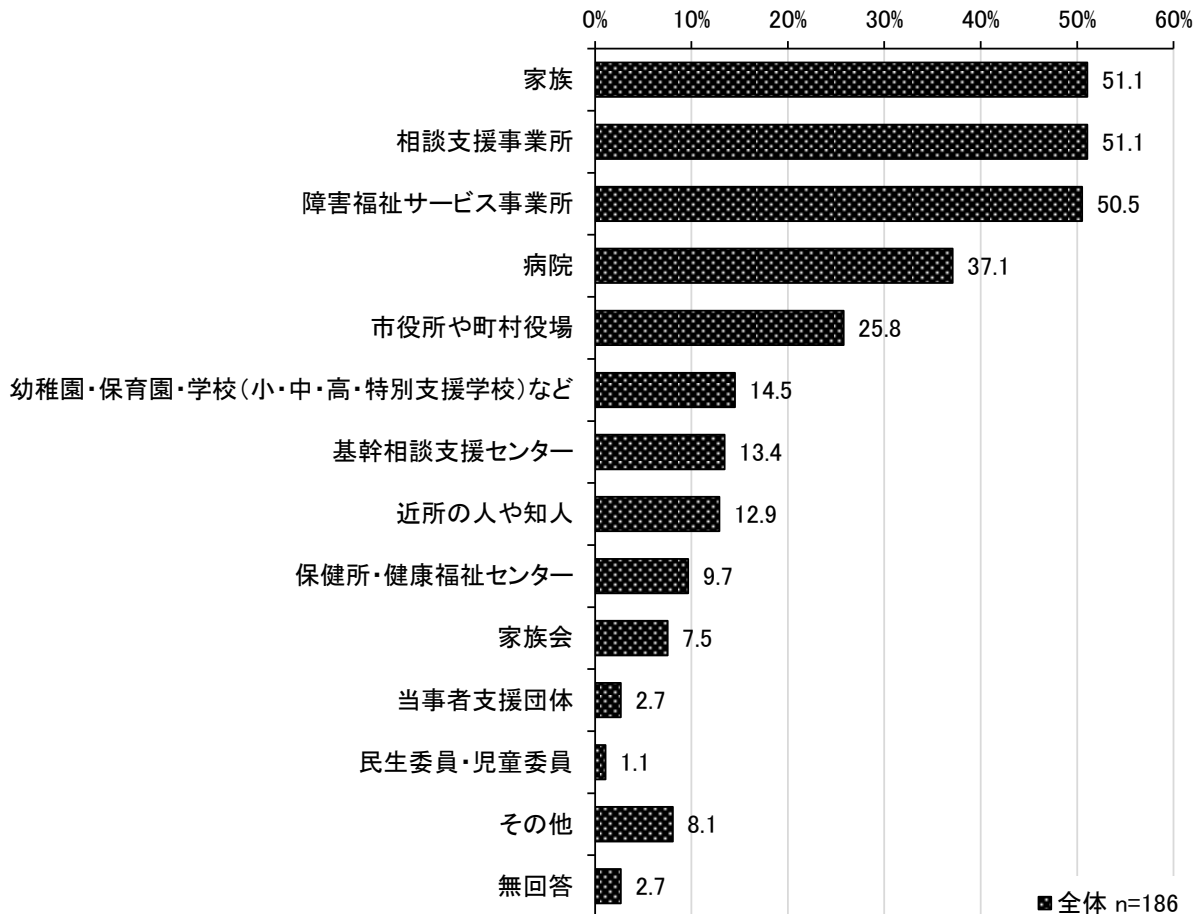
ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感については、『負担になっている（大変負担になっている+やや負担になっている）』が75.2%、一方、『負担になっていない（あまり負担になっていない+全く負担になっていない）』が23.1%となっています。



## 6. ケアラー自身への支援について

### (37) ケアラー自身が頼りにしている相談先や窓口（複数回答）

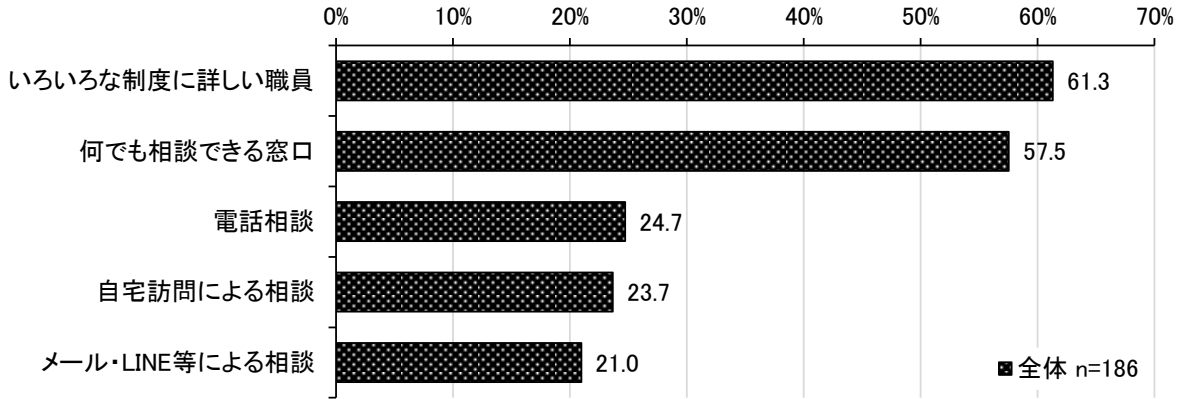
ケアラー自身が頼りにしている相談先や窓口については、「家族」、「相談支援事業所」がともに51.1%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業所」が50.5%、「病院」が37.1%となっています。



**(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援（複数回答）**

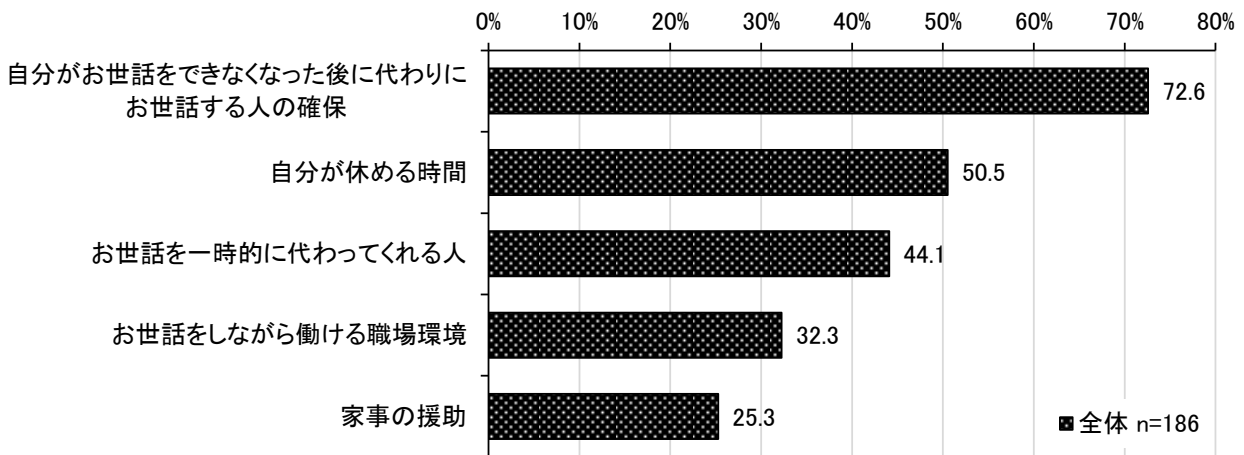
**【A ケアラー自身が相談できる人や場所】**

ケアラー自身が相談できる人や場所については、「いろいろな制度に詳しい職員」が61.3%で最も高く、次いで「何でも相談できる窓口」が57.5%、「電話相談」が24.7%となっています。



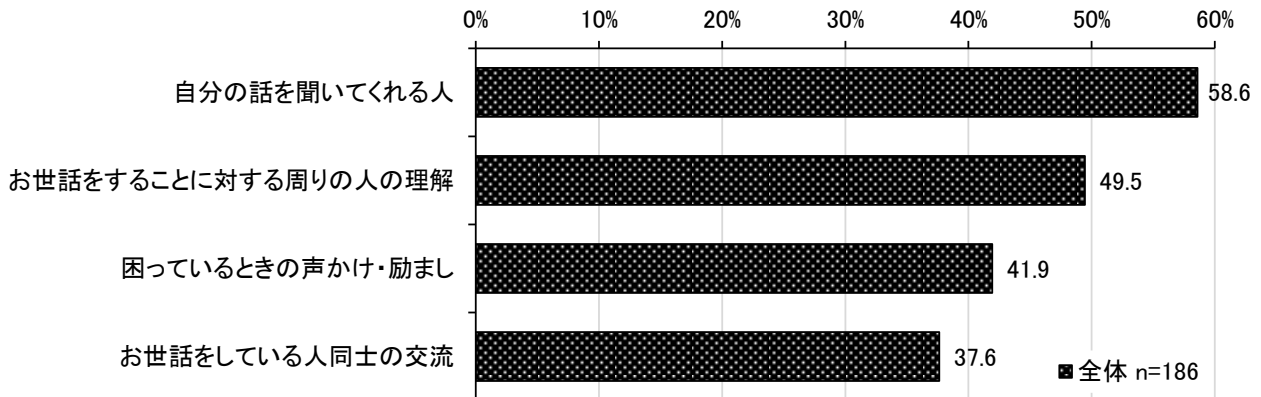
**【B ケアラー自身の負担を軽減する支援】**

ケアラー自身の負担を軽減する支援については、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話する人の確保」が72.6%で最も高く、次いで「自分が休める時間」が50.5%、「お世話を一時的に代わってくれる人」が44.1%となっています。



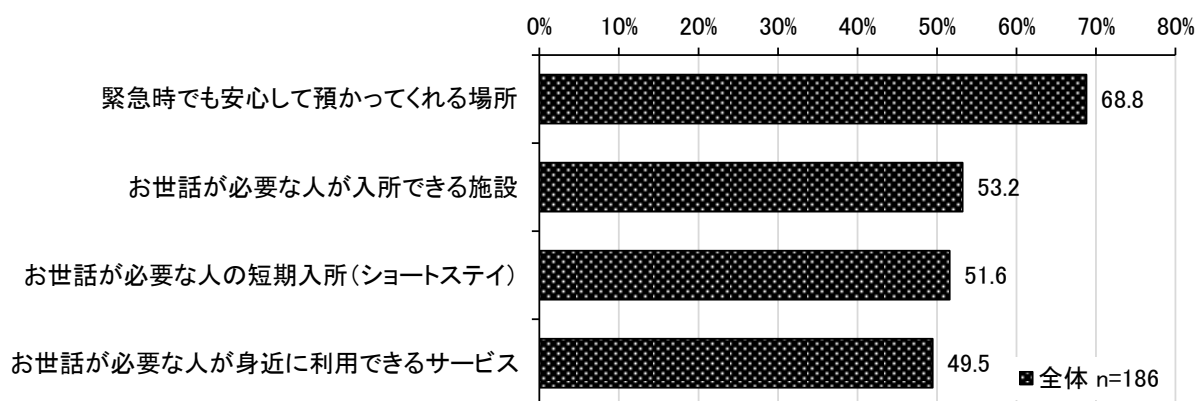
### 【C ケアラー自身の精神的な支え】

ケアラー自身の精神的な支えについては、「自分の話を聞いてくれる人」が58.6%で最も高く、次いで「お世話をすることに対する周りの人の理解」が49.5%、「困っているときの声かけ・励まし」が41.9%となっています。



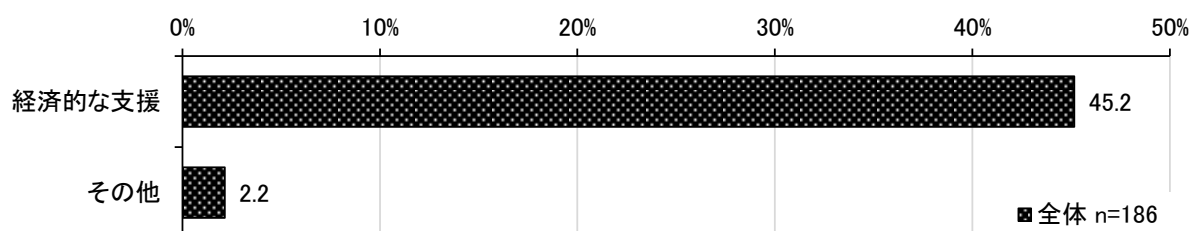
### 【D お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】

お世話が必要な人のための各種サービス及び支援については、「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が68.8%で最も高く、次いで「お世話が必要な人が入所できる施設」が53.2%、「お世話が必要な人の短期入所（ショートステイ）」が51.6%となっています。



### 【E その他の支援】

その他の支援については、「経済的な支援」が45.2%となっています。



**(39) ケアラー自身への支援に対する県や市町への意見・要望（自由記載）**

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

<b>【ケアラー自身が相談できる人や場所】</b>
親が亡くなった後の残された子どもへの支援についてもっと情報がほしいです。
自分にも障害があり就労移行支援を利用している。その中で障害のある弟の面倒を見るのは大変。自分がサービスを利用するようになり、相談支援専門員さんに弟のことも相談できるようになった。自分が福祉とつながるまでは、どこに相談すればいいかわからず家族だからしょうがないと思っていた。相談窓口がどこなのかわかりやすくしてほしい。
お世話が必要な人が受けられる支援やサービスを母親同士のコミュニティで知る事が多いが、各種手続きをしに市役所の窓口へ行ったときに「こんな支援やサービスがありますが、ご存知ですか」などの声掛けをされたことが一度もない（職員から）。こちらから聞かないと知る事ができない（教えてもらえない）。様々な情報を取得しやすい環境（システム）づくりを望む。
一緒に寄り添って相談にのってほしい。
世話をしている中で、様々な情報を独力で集めるのには限界があるので行政側からの積極的な提供、開示を強く求めます。
もっと気軽に相談できる環境を作ってほしい。医療的ケア児のサービス、情報、アドバイスがほしい（就園・就学）。知識、情報、積極性のある人と話しがしたい。
夜に相談できるところを増やしてほしい。24時間「今」相談できるがほしい。
家族のお世話をしている人への支援についての方法ですが、人それぞれ助けてほしい所は違うと思いますので、困った状況をよく面接で聞き、アセスメントした上でその人に合った必要なサービス、助けは何なのかを世話をしている人と共に考え、対応を決めたり、相談したりできるシステムがあると良いと思います。
<b>【ケアラー自身の負担を軽減する支援】</b>
介護のため仕事を辞めざるを得ませんでした。手当等の申請をし、何とか生活をしています。手当を頂くための申請は病院、市役所に何度も足を運び、待ち時間も長く、介護者も連れての移動はかなりの負担になります。正しく申請を行い、手当を頂くために必要な事だと充分理解をしておりますが、もう少し簡潔にして頂けると有難いです。
私達のような日常生活を過ごしている人でも働ける、理解のある職場がもっと増えてほしい。増やしてほしい。気軽に相談できる窓口があると助かる。
発達障害の子を持つ親に対する休暇制度がある企業はまだ少なく、発達支援のサービスを利用するために有休を利用していますが、それ以外にも発熱等の体調不良による早退のお迎えもある為有休では賄いきれません。
申請書を分かりやすくしてほしい。必要項目を分かりやすくしてほしい（印をつけてほしい）。
身の周りの世話や通院と買い物の付き添いのみでなく、余暇の時間の過ごし方を支援したり、不安定な時には常に見守りが必要であったりします。

<b>【ケアラー自身の精神的な支え】</b>
発達障害児でも他の子どもたちや親御さんに気をつかわない公園や遊べる施設がほしいです。
知的障害のある子供を30年介護している者ですが、他の子供達が独立し、通所している所が休みの日などはほぼ障害のある子との2人の生活になります。そんな時子供と2人で気軽に立ち寄れる場所があったらと思います。何かしらのイベントがあり予約をして行くのではなく、ちょっとお茶を飲み立ち寄りと言った感じの場所です。
知的障害児がおります。子供の将来の進路としての選択肢やすでに成人された方のこれまでの進路、成長の様子を知る機会がほしいです。具体的には先輩ママとの交流やお話を聞く機会を希望します。
お世話をしている人同士の交流の場を設けてほしい。同じ立場にいる人の悩みや経験を聞く事で、希望が持てたり辛いのは自分だけではないと思えるから。
各市町村においてフリースペースが月1～2回と少ないのが現状です。地域の人とも関わる機会を多くし共存し、その中で町の中の空きスペースを利用し、親と子が他の方々との会話ができるスペース、居場所作りをして欲しい。
子どもが自閉症で引きこもっている子と、不登校でずっと家にいる子の二人います。私自身も精神障がい者です。夫が在宅で仕事をしているので私は普段はA型事業所で働いています。周囲の方々の理解もあり悩み事などを聴いてもらいながら仕事、子供のお世話、家事、勉強と頑張っていますが、自分の体調がすぐれない時などは、心が折れそうになることもしばしばあります。でも、大変さを分かち合ってくれる人が何人か側に居てくれるだけで頑張れます。
子供が生まれて障害があると分かり、自分自身も家族も受け入れるまでには時間が必要でした。我が子が少しずつ大きくなり、学校への毎日の付き添いをする中で同じ保護者間での情報交換や自分の気持ちの整理などが出来て前を向いて行くことが出来ました。
心理的不安になったとき見てくれる人が必要です。
<b>【お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】</b>
全体的に「緊急時」「臨時」の時にすばやく利用できるサービスが不足しているように思います。気軽にすばやく対応していただけることを望みます。
医療的ケアがあるとお世話になれる所が少ない。お世話が出来なくなった時が一番心配です。ショートステイや入所なども必要となってくるかもしれないので将来的にどうしたらいいのかも悩んでいます。
世話ができなくなった時、グループホームを希望したいと思いますが、身の周りの事、排泄、付き添いがないと無理な人が入所できるグループホームがありません。作ってほしいです。
入所できる施設が増えるようにしてほしい。入所の施設職員の確保。人件費。
家族の世話をしている人（自分）が年齢が上がるにつれ、お世話に対し心身共に辛くなってきたので、ショートステイ（グループホームや入所）などをもっと利用したいと思っています。
ショートステイの利用枠が少ないので増やして欲しい（土日祝日なども）。使いたいのに使えない状況。児童発達支援や放課後等デイサービスの利用回数を親の勤務状況に関わらず週5回使えるようにしてほしい。障害児育児は手が離れる育児ではないので長期的かつ日常的に支援してほしい。
以前からショートステイの事業所が少なく、コロナ禍でまったく利用することができなくなりました。もっと地域に施設があれば助かります。

【お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】
<p>介護者も障害者であり現状ではこれ以上支援を続けるのは限界にありますが、入所施設の受け入れ先が無いこともあり共倒れしてしまうのではないかと心配です。また、経済的にも障害年金だけでは足りなく、本人も入所することにためらっています。</p>
<p>自立する為にグループホームや入所施設が足りないのでは増えると良いなと思います。短期入所も利用したいと思いますが施設に空きがなく、利用できないで困っています。</p>
<p>レスパイトや短期入所など施設があっても職員の不足やコロナ禍、その他さまざまな理由から受け入れてもらえないケースが多々あり、お世話する人の負担が増えている状況なので、希望する人が断られることなく受け入れをして頂けると負担が減り、お世話をしている人への支援につながるのではないかと思います。</p>
<p>夫婦2人だけで子供のお世話をしている場合、他に頼れる人もいないので万が一どちらも体調を崩して病院に通わなければいけなくなった時など、突発的な出来事が起こった時に預ける場所がない。そういう時に支援してくれる場所を増やしてほしい。</p>
<p>県内に発達関係に理解のある医療機関（発達外来、児童精神科、歯科、耳鼻科、眼科等）がもっと増えてほしい。見通しが持てなかったり、パニックを起こしたり等、周りの目を気にしなくて済むような環境があるだけで、病院へ連れていくハードルも下がるので。児童発達支援センターの整備、児童発達支援、放デイの整備、利用しにくい人は多いと思うので、市だけではなく、町にも充実させてほしい。</p>
<p>希望すればだれでも就園できるような環境を整えてほしい（保育士や看護師等の確保）。就園できない場合幼稚園と同じくらいの時間預かってもらえるサービスがあると良い。公園やプール、室内の遊び場などに行く時に付き添ってもらえるようなサービスがあれば利用したい（母一人だと大変なので）。無料で様々な療育に通うことが出来、感謝しております。介護やお世話は本当に大変なので、お世話をする人が孤立しない様にする事も大切だと思います。</p>
<p>精神障がい者が安心して利用できる支援機関を中心部だけでなく身近な場所に作って欲しいです。</p>
<p>子どものショートステイを受け入れてくれる施設が少なすぎます。お世話している母親が入院してしまったら、父親は仕事の為お世話する人が居なくなってしまいます。こういった緊急時に対応できる施設が沢山あればもう少し安心して過ごせます。</p>
<p>グループホームまたはケアハウスが少ないので増やしてほしい。</p>
<p>山間部や過疎地域などに対する、支援環境の整備をお願いしたい。</p>
<p>児童の短期入所の施設を身近に増やしてほしい。</p>
<p>入浴サービスが増えてほしい。</p>
【その他の支援】
<p>最重度のため、災害時など避難所に行けない。在宅でも物資の支援を受けられるのか心配です。</p>
<p>障害のある兄弟にも言葉にならない不安があるということを想定していただき、それを支えるネットワークがあるとありがたい。障害を個性ととらえて特別な人ではなく、皆、同じ仲間という気持ちで設備のバリアフリーや心のバリアフリーを進めていただきたい。</p>
<p>障害者年金制度はあり利用していますが、今後の経済状況を見た時足りないことが不安です。</p>
<p>ずっと家で生活をいっしょにしたいと思っています。現在は充実したサービスを受けていて生活ができています。障害のある兄弟が65才になった時の生活がどのようになるのか・・・経済的、体力的、精神的に追い詰められていくのではないかと大変心配しています。</p>

**【その他の支援】**

「大変」や「負担」が前提のような気がして不快でした。私たちにとって日常なので改めて聞かれると悩みます。

母がサービスを望んでいません。でも私はサービスを使ってほしいです。

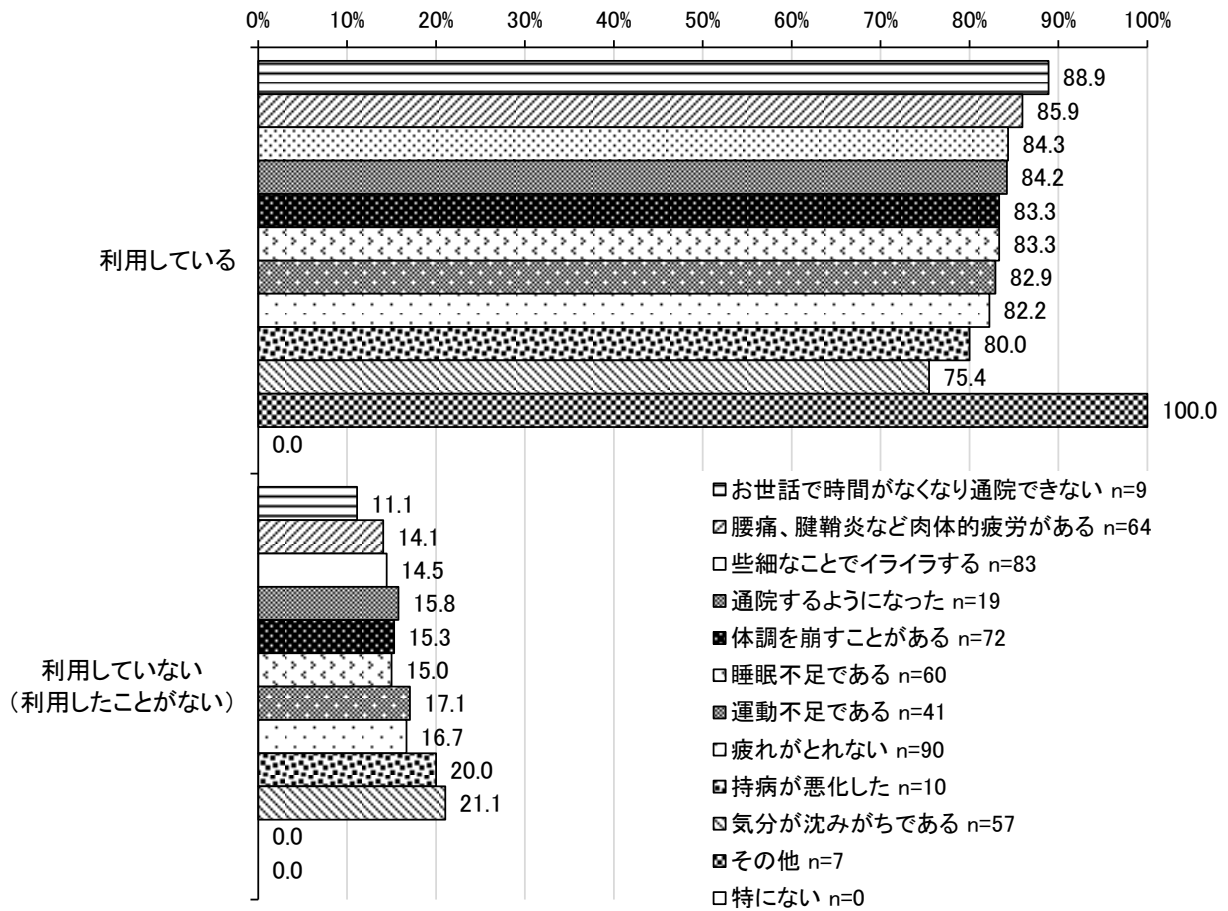
住宅環境改善のためにもっと助成金を出してもらいたい。

経済的に厳しい状況ですが、デイサービス等に預けている時間内で働ける場所も少なく大変困っています。



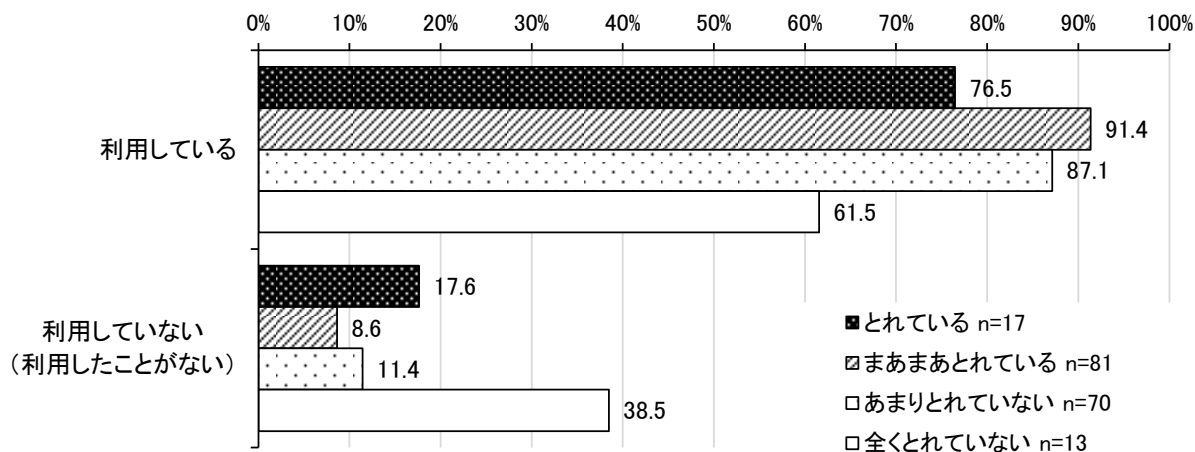
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(33) お世話をすることによる健康状態への影響**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とお世話をすることによる健康状態への影響については、公的支援を利用している場合は、「お世話で時間がなくなり通院できない」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「気分が沈みがちである」の割合が高くなっています。



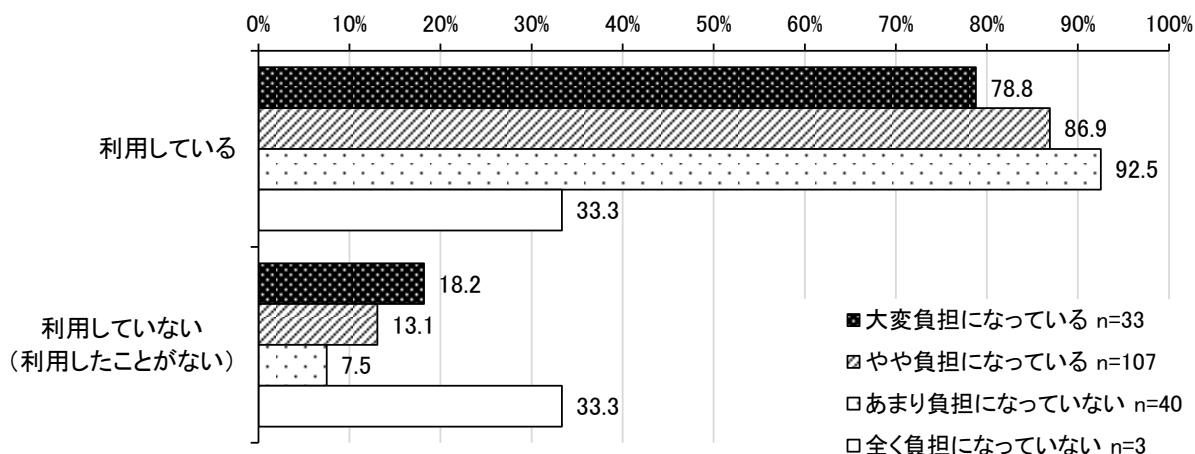
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(34) 趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無と趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感については、公的支援を利用している場合は、「まあまあとれている」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「全くとれていない」の割合が高くなっています。



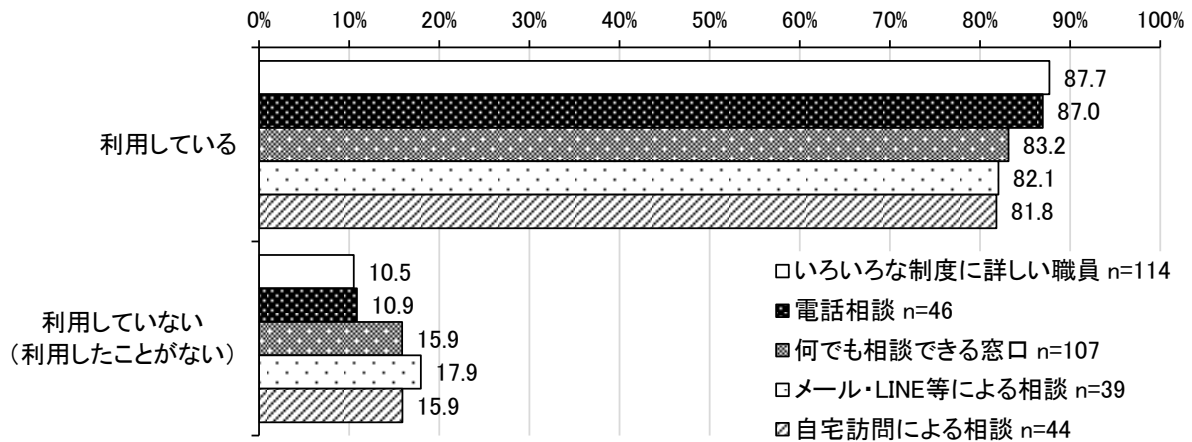
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(36) ケアラー自身を感じるお世話を必要としている人の負担感**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感については、公的支援を利用している場合は、「あまり負担になっていない」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「全く負担になっていない」の割合が高くなっています。



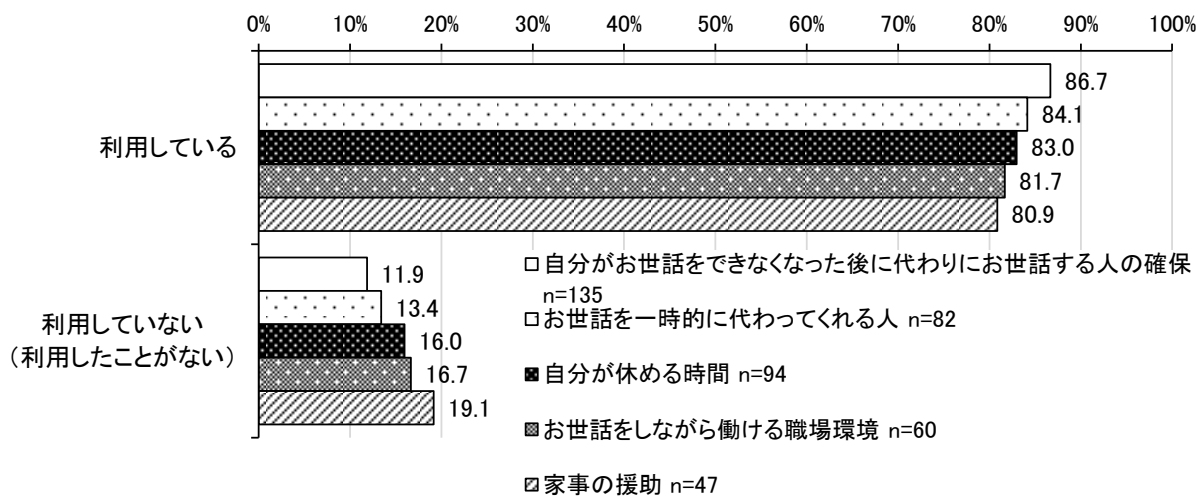
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援**  
**【A ケアラー自身が相談できる人や場所】**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身が相談できる人や場所に対する支援については、公的支援を利用している場合は、「いろいろな制度に詳しい職員」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「メール・LINE 等による相談」の割合が高くなっています。



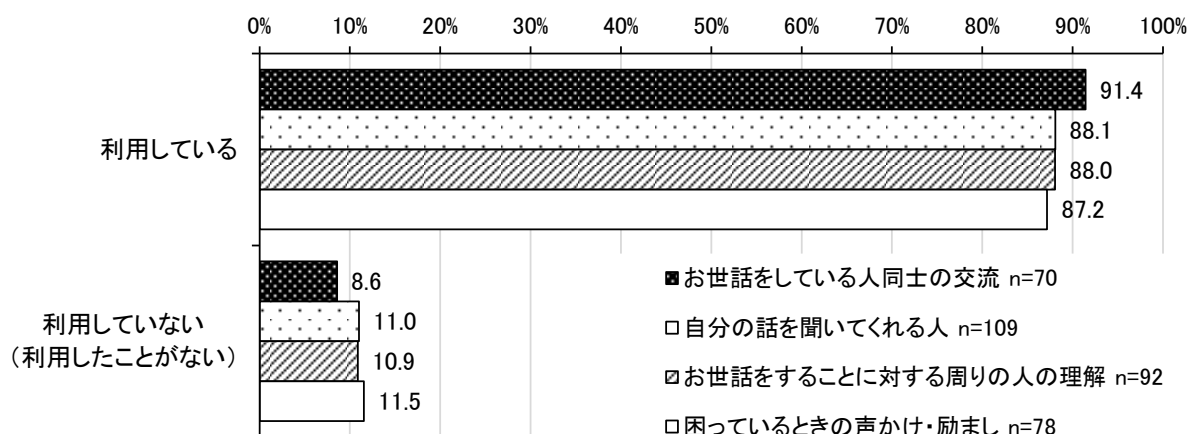
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援**  
**【B ケアラー自身の負担を軽減する支援】**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身の負担を軽減する支援については、公的支援を利用している場合は、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話する人の確保」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「家事の援助」の割合が高くなっています。



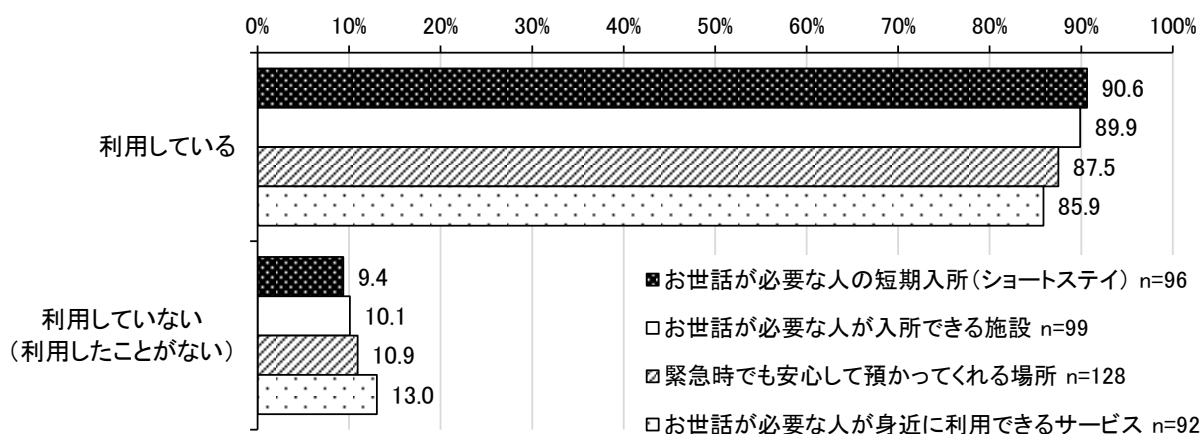
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援**  
**【C ケアラー自身の精神的な支え】**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身の精神的な支えについては、公的支援を利用している場合は、「お世話をしている人同士の交流」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「困っているときの声かけ・励まし」の割合が高くなっています。



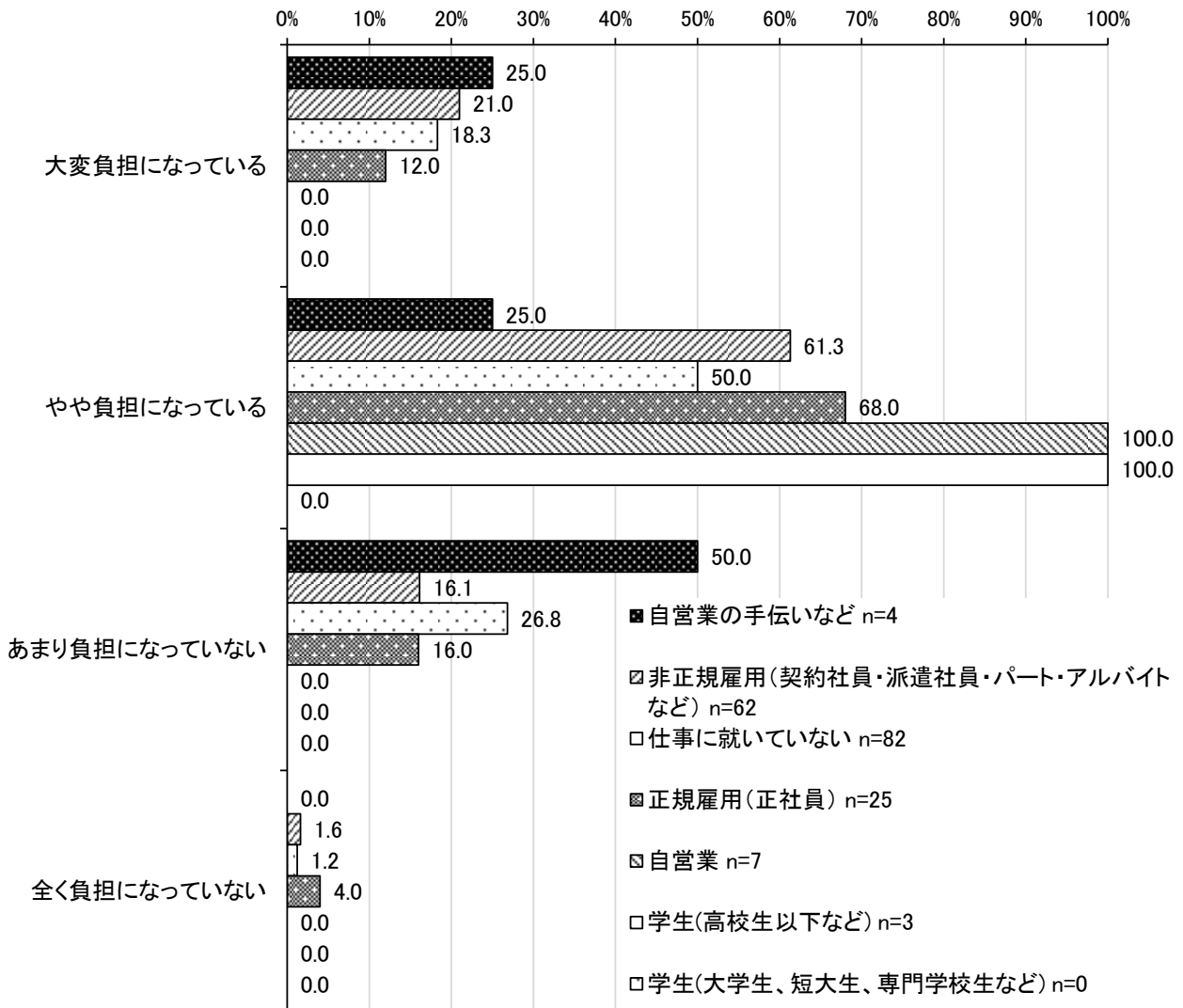
**クロス集計 (24) お世話が必要な人の障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援**  
**【D お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】**

障害福祉サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とお世話が必要な人のための各種サービス及び支援については、公的支援を利用している場合は、「お世話が必要な人の短期入所（ショートステイ）」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「お世話が必要な人が身近に利用できるサービス」の割合が高くなっています。



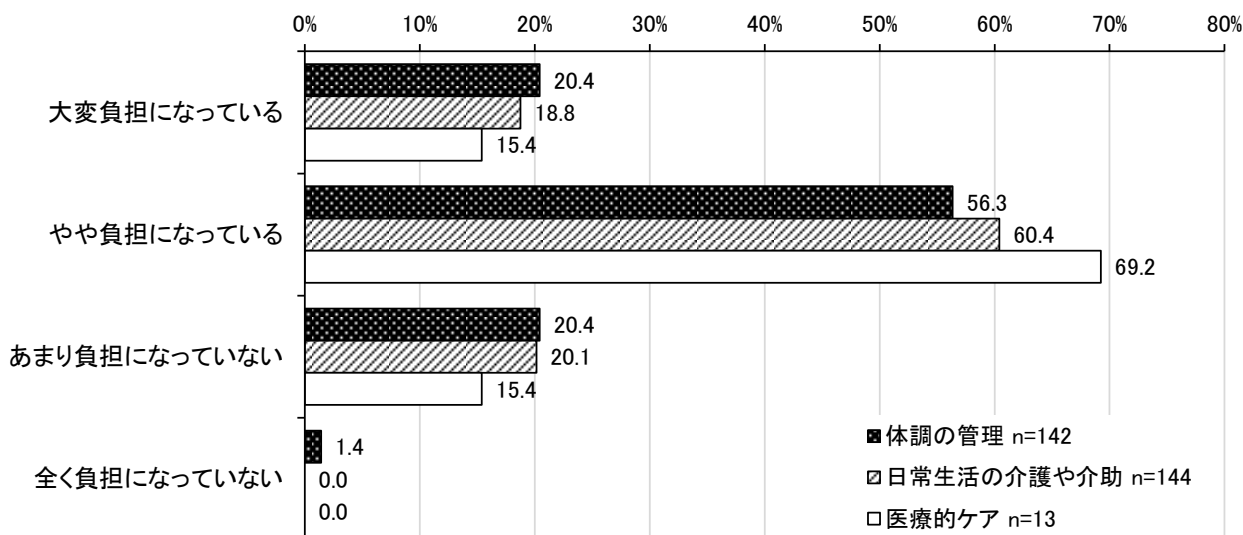
**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人の負担感×  
(4) ケアラー自身の就労状況**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とケアラー自身の就労状況については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「自営業の手伝いなど」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「自営業」、「学生(高校生以下など)」の割合がともに高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「正規雇用(正社員)」の割合が高く、「あまり負担になっていない」場合は、「自営業の手伝いなど」の割合が高くなっています。



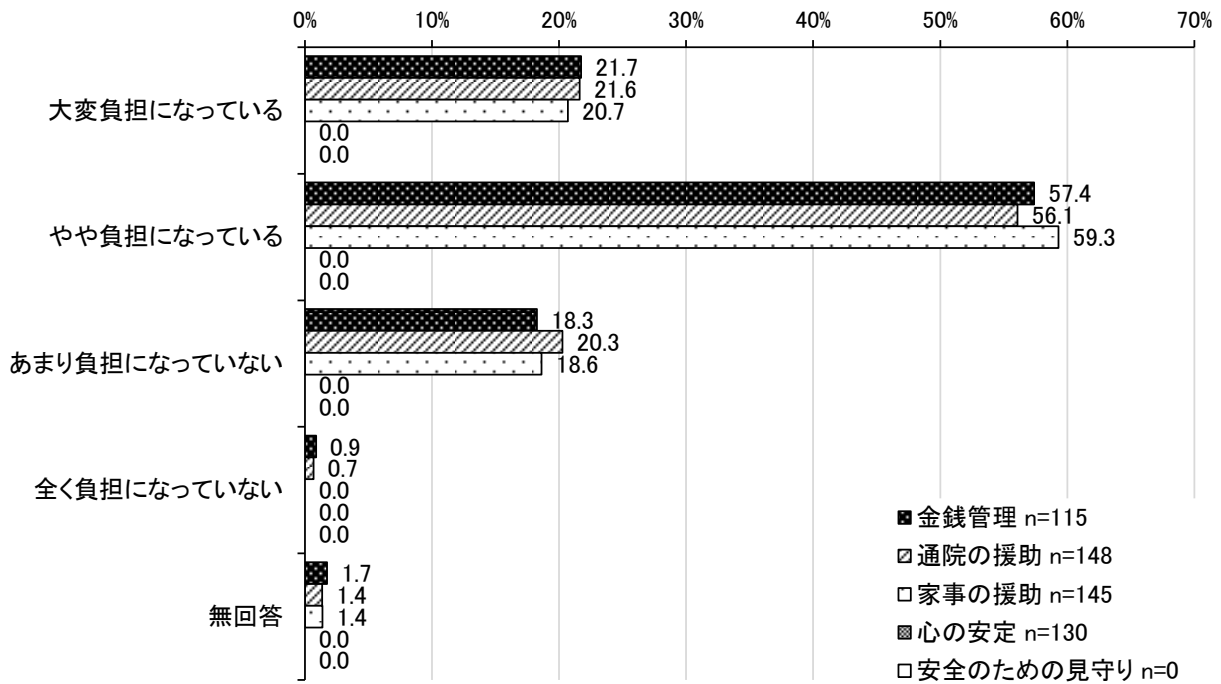
**クロス集計 (36) ケアラー自身が感じるお世話を必要としている人の負担感×  
(10) お世話をしている内容【A 身体的介護や介助のこと】**

ケアラー自身がお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「身体的介護や介助のこと」については、ケアラー自身がお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「体調の管理」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「医療的ケア」の割合が高い。一方、「あまり負担になっていない」場合は、「体調の管理」の割合が高くなっています。



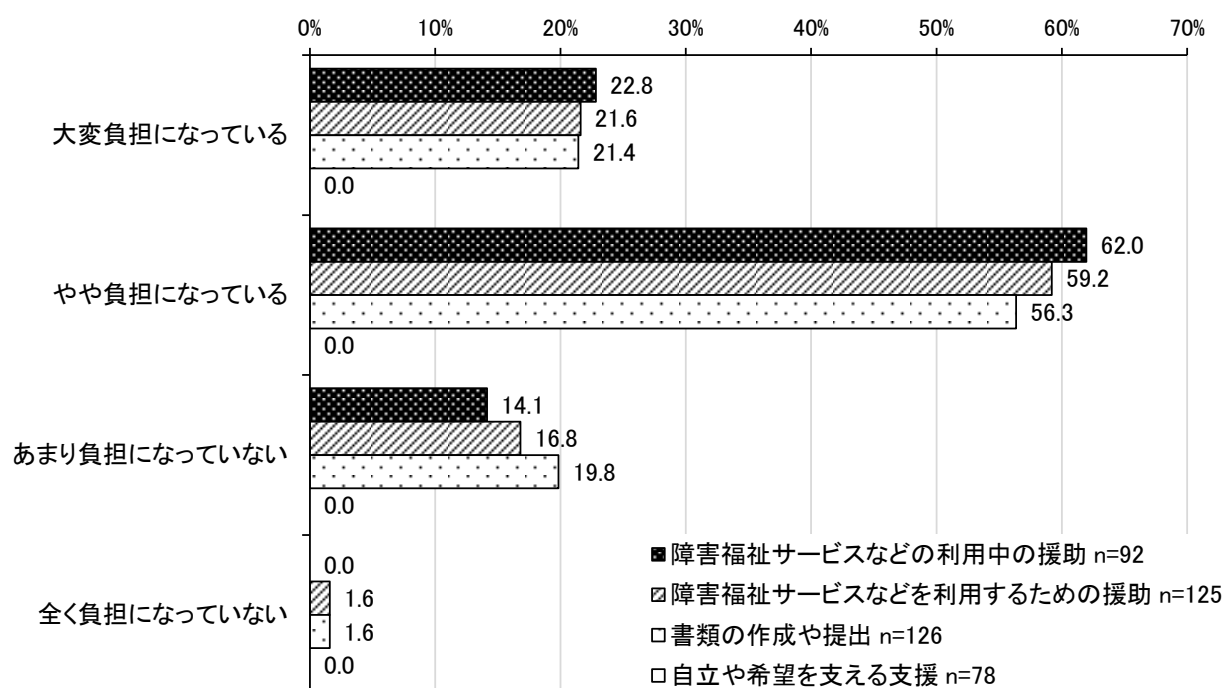
**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話を必要としている人の負担感×  
(10) お世話をしている内容【B 日々の暮らしに関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「日々の暮らしに関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「金銭管理」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「家事の援助」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「金銭管理」の割合が高く、「あまり負担になっていない」場合は、「通院の援助」の割合が高くなっています。



**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話を必要としている人の負担感×  
(10) お世話をしている内容【C サービスの利用に関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「サービスの利用に関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」、「やや負担になっている」場合は、「障害福祉サービスなどの利用中の援助」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「障害福祉サービスなどを利用するための援助」、「書類の作成や提出」の割合がともに高く、「あまり負担になっていない」場合は、「書類の作成や提出」の割合が高くなっています。





**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話を必要としている人の負担感×  
(10) お世話をしている内容【D 趣味や余暇活動に関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「趣味や余暇活動に関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」、「やや負担になっている」場合は、「散歩の同行」の割合が高い。一方、「あまり負担になっていない」場合は、「趣味や余暇の支援」の割合が高くなっています。

